

会長のページ 新専門医制度と医師不足	河野 雅行	3
日州医談 電子メディア社会の子どもたち	糸数 智美	4
エコー・リレー (512)	三橋 龍馬, 足利 敬一	6
宮崎グルメ探訪 No.6 サレルーナ	棚田 敏文	7
メディアの目 「逆行」か「先端」か	宮崎 太介	8
宮崎大学医学部だより(病態解析医学講座 救急・災害医学分野)	落合 秀信	14
専門分科医会だより(内科医会)	光川 知宏	15
診療メモ 「倫理的に考える」ために必要なEBMとNBM	板井孝壱郎	56

あなたできますか？(平成28年度医師国家試験問題より)	9
宮崎県感染症発生動向	10
各郡市医師会だより	12
各種委員会(医学会誌編集委員会)	16
ベストセラー	16
宮崎県医師会創立129周年記念医学会・県民健康セミナー	17
第2回 各郡市医師会長協議会	18
九州医師会連合会救急・災害医療担当事務連絡協議会第2回九州ブロック災害医療研修会	20
九州医師会連合会第369回常任委員会	24
日医インターネットニュースから	26
医師国保組合だより	28
理事会日誌	30
県医の動き	34
会員の異動・変更報告	35
ドクターバンク情報	37
行事予定	43
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	45
あとがき	60

公 示 宮崎県医師会役員等の選挙について	25
お知らせ 医師資格証を持ちましょう	36
日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています	41
宮崎県医療勤務改善支援センター	55
郡市医師会への送付文書	58

医師の心得

1. 私たちは、皆さまの
健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに
最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに
医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの
「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの
健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成14年 3 月12日制定)

〔表紙作品:写真〕

頭に毛が生えた

ムズムズ痒いのは啓蟄の頃からか
掻きたいけれど手が出ない
瑞々しいと褒められて
じーっと我慢の末には夏が来て
広げた陰には
子が集う

宮崎市 たけ竹 お尾 やす康 お男

会長のページ

新専門医制度と医師不足

かわ の まさ ゆき
河 野 雅 行

様々な紆余曲折を経て新専門医制度が発足しました。2018年、宮崎県で専門医を目指す専攻医は一次登録で30名と衝撃的な数字でした。二次登録後で37名になりましたが、それでも全国最下位です。

新専門医制度は、従来の制度における問題点を改善するために発足しましたが、未だ充分とは言えず既にいくつかの問題提起もあるようです。最も問題とされるのが、地域や診療科の偏在が助長され、地域医療への影響が出るのではないかというものです。偏在が生じないような手段を講じたとの専門医機構の説明にも関わらず、宮崎県では新専門医制度における専攻医登録は前記の通りです。これは衝撃的な数字で県地域医療にとっては危機的な状況です。この学年の初期研修医は全県で47名でしたから実に10名の減少となり、まさに当初懸念された事態が起こっています。

県では知事を先頭に行政、大学、関連病院、医師会が一体となってオール宮崎で若手医師の確保に取り組んでおり、その効果で近年は毎年50名程の研修医を確保するまでになっていました。新制度の下では少なくとも現状維持を、あるいは増加するのではないかと淡い期待もありました。しかし、現実とは前記したとおりでした。今回の制度の下では我々の努力も蟻螂之斧と化してしまい、無力感を感じさせられます。

何故、宮崎に研修医を含む若手医師が確保できないのか？諸氏が様々な要因を述べられています。

一つは、研修修了後の若手医師の働く場が少ないことが考えられます。将来の見通せない環境に身を挺していく若人は多くはないと思われます。県医師会では行政に対して幾つかの提言を行ってきました。県立病院を始めとする公的病院に医師の定員を増やしてプール化するのは如何か。宮崎に残る確率の高い宮崎大学出身者や県内出身者を積極的に採用するのは如何か等々。医師数は多い分には違反とはなりません。増やした人員は、余裕となり医師の働き方問題も緩和できるし、更に余裕があれば地方病院への派遣も可能となります。

新制度のひずみについては、日医を通じて専門医機構や厚労省に是正を働きかけています。このままでは、崩壊しつつある宮崎県の地域医療は再起困難となります。地域医療の崩壊は地域社会の崩壊に直結します。医師の絶対数不足が叫ばれて久しく、地域医療を維持するのに最小限の医師数が不足気味です。中でも宮崎県では若手医師が少なく、平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査(厚労省)では県内全医師2,613名中50歳以上が1,414名で54%を占めています(全国平均は47%)。

宮崎大学で初期研修した医師28名が2018年度引き続き宮崎県内に残る率は85%に上ることから、研修医確保が若手医師確保に直結すると思われます。種々の問題から定数に達していない宮崎大学の地域枠を充足させる工夫も必要です。

医師不足問題は、県行政や大学、医師会が対策を講じるだけでは解決しません。将来、宮崎の地域医療を如何に守っていくかにつながる問題であり、県民一人ひとりも自分たちのこととして真剣に考えていかななくてはならない問題なのです。

(平成30年 3 月23日)

日州医談



電子メディア社会の子どもたち

理事 糸 かず さと み
数 智 美

1. はじめに

今や電子メディア(以後メディア)の発達著しく、テレビやビデオ、ゲーム、パソコン、スマホなど子どもたちは生まれた時から、様々なメディアに囲まれて生きています。残念ながら、日本の子ども達のメディア接触時間は世界一。NPO法人「子どもとメディア」の調査によると小中学生の半数以上が平日休日平均6時間以上のメディア漬け状態とされ、乳幼児期のメディア接触の「早期化」「長時間化」が加速、「電子ベビーシッター」状態が指摘されています。さらに授乳中のテレビ、ビデオ、メールは母親の7割以上が経験し、2歳児の9割がスマホを触ったことがあるとの衝撃的な報告もあります。日本小児科医会は、2004年の提言以来啓発活動を行ってきました。ネット依存疑いは、厚労省発表(2013年)で中高生の約52万人と大きな問題となっており、今年WHOは最新版のICD-11で、「ゲーム症・障害」を病気として定義分類する方針としました。どんなに科学が進歩しても、どんなに世の中が変わっても、子どもの発達過程は変わりません。この時期をどう過ごしていくかは、とても大切です。私たち大人は、子どもたちの健やかな育ちを守るため、何が問題で何が大切なかを伝えていかなければならない時代を迎えています。

2. 子どもの心への影響

子どもの心の発達には、「応答のある関わり」

がとても大切です。エリクソンの心の発達理論でいう「基本的信頼感」は、毎日の母と子の間で交わされる目と目を合わせた、優しい声かけ、ふれあいの中で生まれます。「守られている」「愛されている」という「安心感」を得た子どもは、「人を信じる心」を覚え、やがて「自分を信じる心」つまり自尊心・自己肯定感を育みます。この乳幼児期の親子の関わりで結ばれる「愛着」という絆が、心の土台となるのです。頭と体を精いっぱい使う「遊び」もまた子どもの命です。メディアは残念ながら一方通行の関わりしかできません。過剰な音と光の一方的な刺激は、子どもの脳の発達に明らかな弊害を及ぼす(前頭前野の機能低下など)ことが近年報告されてきました。親がスマホに夢中なあまり不慮の事故が増え、かまっていきたい子どもが置き去りにされている現状も悲しいことです。「ママのスマホになりたい」という絵本が話題にもなりました。大切な心の土台を築く乳幼児期にメディアは不要です。

学童期になってもメディア依存度の高い子どもたちには、①自己表現が乏しい、②コミュニケーションが苦手、③家族関係が希薄などの傾向がみられ、「幼児期からゲームに接触していた子どもほど依存が高い」傾向が報告されています(NPO法人「子どもとメディア」調査)。

3. 子どもの体への影響

子どもの身体への影響も深刻です。まだ根拠

についての十分なデータはありませんが、ブルーライトの影響、早期に長時間の近見状態を継続することの是非については懸念があると聞いています。問題は、眼だけではなく。外遊びが減ることにより歩行数が減り、足の発達レベルの低下、体幹の筋肉の発達不全、いわゆる「子どものロコモ」が増えています。子ども時代に必要な「実体験」が不足することにより、自律神経は育たず、五感も劣化した子どもが増えてきました。また、長時間のメディア接触により生活のリズムが崩れ、子どもの生活習慣病が増えていることも懸念される現状です。

4. 県内での取組み

昨年3月1日、「子どもとメディアの問題をしっかりと考え、子どもの健やかな育ちを守るために学び、調査し、それを基に啓発活動を行っていこう」と、市民団体「子どもとメディアみやざき」が発足しています。発起人のメンバーは、大学・高校等教師、複数の子育て支援NPO団体、絵本の郷スタッフ、新聞等報道関係者、医師など多職種にわたっており、発足以来2か月に1回の勉強会を実施し、お互いの研鑽を積むと共に協議を重ねています。また、宮崎の現状を知るために、宮崎県立看護大学と共に昨年9月、県内認定こども園、保育園、幼稚園の20園(園児数2,658名、2,157世帯)を対象に実態調査が実施されました。初年度は、乳幼児期に焦点をあてた電子メディア接触と生活実態調査を行い、回収率76.7%と高い回答の結果、メディア接触時間は1日平均0歳児70分(0分が約半数)、1歳児152分、2歳児184分、3歳児184分、4歳児187分、5歳児200分、6歳児205分と非常に長く、休日の接触時間はどの年齢も増加し、3～6歳では4～5時間に及ぶというショッキングな結果が示されています。今年2月17日には、「子どもとメディアみやざき

第1回フォーラム」を宮崎看護大学高木講堂で開催、清川輝基氏(NPO法人子どもとメディア代表理事)による基調講演や、実地調査報告と共にパネル討論会などが、多くの保育や学校教育関係者を含む参加者280名で行われました。宮崎の実態の把握と、子育て中の親や保育関係者にメディア問題への「気づき」を目標としており反響は大きかったようです。

5. メディアリテラシーの大切さ

メディアの膨大な情報を無条件に受け入れるのではなく、取捨選択し理解・活用する能力を「メディアリテラシー」と言います。

メディアとどう付き合っていくのか、乳幼児期、学童期、思春期、青年期、保護者、祖父母世代など全ての世代に正しい情報と知識を伝えていく必要があります。「どうしたらいいのかわからない」「知らない」を支えていくことが、まさしく子育て支援です。「子どもとメディアのよりよい関係」を目指すことが急務です。

6. おわりに

核家族化が進み、共働き家庭は増え、子どもたちの遊び場もない、この時代の子育ては苦難に満ちています。スイッチ一つで、子どもを静かにさせられるメディアに頼ってしまう親たちをただ否定するのではなく、「もっと楽しい遊び、もっといい方法があるよ」と、「一緒に遊ぶ楽しさ、大切さ」を伝えていかなければなりません。幼い頃からの「楽しい」「うれしい」「ワクワク」「ドキドキ」する様々な実体験を重ねて、メディアよりもっとずっと楽しい世界があることを教えなければなりません。自然豊かな宮崎なら、「よく遊び、よく食べ、よく寝る」元氣な親子を育てることができるはず。「日本のひなた宮崎県」だからこそできることを、一緒に考えてみませんか。

エコー・リレー

(512回)

(南から北へ北から南へ)

エコー・リレーいや今回はメタボ・リレーの巻

宮崎市 野崎東病院 ^{みつ}三 ^{はし}橋 ^{りゅう}龍 ^ま馬

宮崎に来てから20年が経過した。宮崎医科大学に入学し友人の誘いもありサーフィンを始めた。ポリクリを抜け出して海に行くほどサーフィンをしていた時期もあった。整形外科医として働き始めたが、我々の代は研修制度が変わる前の最後の学年であり医局の後輩ができるまで3年間は一番下っ端として働かされたため働き始めて数年たっても時間的余裕もなかった(ことにさせてもらおう)。去年の春先のことである。ビールの飲み過ぎと運動不足で出てきたお腹のせいか、それともゴムの劣化かは定かではないがフルスーツを着ようとしたら見事に破れてしまった。痩せたらまたフルスーツを作ってサーフィンしようと思っていた。しかしなかなか痩せない。そこで、「もし痩せてお腹周りが緩くなったらまた新しいのを作ればいい」と自分に言い聞かせて、先日某サーフショップにて10年ぶり？にフルスーツをオーダーした(医師会病院の医長手当半年分に相当する金額、勤務医の私にとっては高額)。なぜかは自分でもわからないが腹囲を計測する時に少しだけお腹を引っ込めてしまったような気がする。原稿を書いている段階では手元には届いていないがこの原稿が雑誌に載るころには届いているはずである。エコー・リレー掲載時、私はちゃんとサーフィンをしているのだろうか？未来の自分へのプレッシャーをかけるためにあえてエコー・リレーに書いてみた。願わくばサーフィンをし過ぎて痩せてしまいフルスーツがゆるくなってしまっていて新しいものを買おうかと迷っていてほしいところである。

〔次回は、都城市の福島 克彦先生をお願いします〕

ダイエット

宮崎市 宮崎市郡医師会病院 ^{あし}足 ^{かが}利 ^{けい}敬 ^{いち}一

大学時代は全学の剣道部生活が充実しており、体型も維持されていましたが、大学卒業後、全く運動をすることがなくなりました。一方でご飯が大好きな食生活を続けた結果、メタボリックな体になり、とはいえ、あまり気にもせず、体重も減多に量ることもありませんでした。昨年2月、ファッションに疎い私が友人の勧めで、初めてイージーオーダースーツを誂えた際にウエストを測ってもらい、メタボリックシンドロームの診断基準を遥かに上回る数値に愕然としました。これまでダイエットとは無縁でしたが、スーツを綺麗に身にまとうためにもと、一念発起、とはいえジムに行く時間もなく、まずは毎日車で通っていた通勤を、徒歩で約1時間かけて通い、同時に大好きなご飯を断って、おかずだけを食べる生活を始めました。徒歩での通勤は、朝は気持ちもいいのですが、帰りは真っ暗な夜道をとぼとぼと歩く、辛い苦行のようでした。食事は意外と慣れるもので、1年経った今ではご飯も食べますが、量は以前に比べて減りました。ダイエットといいながら、体重を量るのは面倒で、今でも自分の体重を把握しておらず、どのくらい体重が減ったかは分からないのですが、新調したスーツもサイズが大幅に変わってしまい、補正代をとられる始末、体はずいぶん軽くなった気がします。しかし、悲しいかなこの年齢になると、久しぶりに会った人かけられる言葉は「痩せました？病気ですか？」。

〔次回は、日向市の今給黎 承先生をお願いします〕

宮崎グルメ探訪

No.6



サレルーナ

国富町 棚田内科泌尿器科 ^{たな}棚 ^だ田 ^{とし}敏 ^{ふみ}文

宮崎市内には、美味しいイタリア料理のお店が沢山あります。お勧めのお店が5件以上あります。「haru (はる)」、「ジーリ」、「イル・ソリーゾ」、「パッパカルボーネ」に並んで、お勧めしたいのが、今回ご紹介する「サレルーナ」です。

昨年3月末に、日向から宮崎に移転・オープンしました。オーナーシェフの塩月さんが、自分の名前からサーレ(塩)、ルーナ(月)を使って、お店の名前にしています。

コース料理も良し、一品料理を頼むのもまた良しです。

小生は、二人で行くときは、前菜盛り合わせに、パスタ、1品料理を頼んで、グラスワインとお勧めのボトルワインを注文しています(7, 8人で開催するワイン会の時はコース料理にし

ます)。

味に、外れがありません。実直そうな人柄がそのまま、料理に表れており、素材の良さを丁寧に引き出す料理人だと思います。いろんな手打ちパスタも楽しめます。ママさんの優しい接遇も合格点です。

ワインの品揃えも豊富です。嬉しいことに、高価なワインの値付け(掛け率)が安く設定されています。グラスワインも5, 6種用意しており、少人数でも利用しやすいお店です。

ワイングラスも多数用意してあって、ワイン会にも充分対応できます。

PS 画像は先日食べた前菜盛り合わせと、紫芋のラビオリです。



(前菜盛り合わせ)



(ラビオリ)

「宮崎グルメ探訪」原稿募集

ご好評いただいております「宮崎グルメ探訪」の原稿を募集いたします。お気に入りのお店の雰囲気やお勧め料理、お店での思い出話など何でも結構です。ご投稿をお待ちしています。

原稿文字数：600～800字程度

写真：執筆者顔写真 その他料理等の写真(掲載は白黒)も2枚程掲載できます。

原稿送付先：宮崎県医師会 広報委員会 宛 〒880-0023 宮崎市 和知川原1-101

FAX 0985-27-6550 TEL 0985-22-5118

メール genko@miyazaki.med.or.jp

※原稿・写真とも出来ればファイルでいただければ幸いです。

※予めお店へ了承を得ていただきますようお願いいたします。

◎掲載については、広報委員会にご一任ください。



メディアの目



「逆行」か「先端」か

朝日新聞社 宮崎総局長

みやざき たいすけ
宮崎 太 介

街頭演説や記者会見で取材相手の言葉が心に引っかかり、メモをつづる手が一瞬止まることがある。たいていはその言葉から何かを連想している……。1月末に行われた宮崎市長選でもそうだった。

「ソフトからハードに、ということ」

3選を果たした現職の戸敷正市長が決起集会で「アリーナを建設する」と明言した際に合わせて強調したフレーズだった。

これを聞いて私にはある言葉が浮かんできた。それは「コンクリートから人へ」だった。

民主党(民進党や立憲民主党などの前身)がかつて自民党から政権を奪った時に掲げた理念だ。民主党政権時代に私が政治部で首相官邸の取材担当デスクをするなどしていた頃、永田町かいわいで何度も聞いたものだった。もちろんハードやソフトといった言葉の意味は広く、「コンクリート」や「人」にそのまま置き換えられるわけではない。だが、当時の民主党では「コンクリートから人へ! ハードよりソフト!」(仙谷由人元官房長官)などと、ひと続きの文脈でよく語られていた。

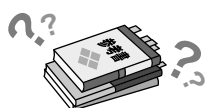
民主党政権は3年余りで終わったが、行政運営などでの「ソフト重視」の流れは続いているように見える。朝日新聞記事データベースによる

と、2000年以降の政治、行政、まちづくり分野の記事で「ハードからソフトへ」が使われたのは54件。12年の自民党の政権復帰後も自治体予算や首長インタビューの記事などで登場している。一方、この分野で「ソフトからハードへ」を使った記事はゼロだった。

宮崎市は、中心市街地を活性化して若者らをつなぎとめようと、「人」への投資を進めてきた。たとえば、一定期間ビルの一室を無料提供して創業を支援したり、若者の空き家入居者の一部に家賃を助成したり。その最中、「人口減時代の宮崎市政のあり方が問われる」(有馬晋作・宮崎公立大学学長)という市長選で、アリーナ建設というハコモノ(=コンクリート)を前面に出すという「転換」が図られた。

戸敷氏は「おカネはありません。知恵を出す」という。2月末の市議会で2年以内に基本構想や基本設計をまとめる考えを表明した。

「やっぱりハコモノ頼みは時代遅れだった」となるのか。あるいは民間を巻き込むなどして新しいありようや予想以上の効果を示し、「先端」の手法となるのか。構想の進み方から建設後の運営の姿まで、長く問われ続けることになる。



あなたできますか？

—平成28年度 医師国家試験問題より—

(解答は19ページ)

1. 閉経後に減少または低下するのはどれか。2つ選べ。

a FSH
b 骨 量
c 腔内pH
d 皮膚コラーゲン
e LDLコレステロール

2. 69歳の女性。呼吸困難と胸痛とを主訴に来院した。1時間前から突然、呼吸困難と胸痛が出現した。様子をみていたが、30分以上症状が軽快しないため来院した。既往歴に特記すべきことはない。自宅の修繕のため、ここ数日は夜間に自家用車の中で睡眠をとっていた。身長155cm、体重76kg。体温36.0℃。脈拍104/分、整。血圧110/80mmHg。呼吸数22/分。SpO₂91% (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。胸部に圧痛を認めない。症状の呼吸性変動を認めない。胸部エックス線写真で異常を認めない。心電図で洞性頻脈を認めるが他に異常を認めない。この患者の診断に有用性が低いのはどれか。

a DLco
b 心エコー
c Dダイマー
d 胸部造影CT
e 動脈血ガス分析

3. 脳卒中後、早期にリハビリテーションを開始することで予防できるのはどれか。

a 不整脈
b 関節拘縮
c 消化性潰瘍
d 脳卒中再発
e 大腿骨頸部骨折

4. 腹部の触診で呼吸に応じて移動する腫瘍はどれか。

a 膀胱癌
b 胆嚢癌
c 腹部大動脈瘤
d 腹膜偽粘液腫
e Krukenberg腫瘍

5. 食物アレルギーで正しいのはどれか。

a アトピー性皮膚炎と関係ない。
b 消化管アレルギーはIgEを介して発症する。
c 口腔アレルギー症候群は乳児期から発症する。
d 即時型食物アレルギーの原因として最も多いのは鶏卵である。
e 食物依存性運動誘発アナフィラキシーは乳児期から発症する。

6. 1か月の乳児。発熱を主訴に両親に連れられて来院した。本日から38℃台の発熱を認めたため夜間の救急外来を受診した。咳や鼻汁などの気道症状はなく、嘔吐や下痢もない。しかし、何となく元気がなく泣き声も弱々しい。哺乳量も普段の半分程度であるという。在胎39週、2,980gで出生した。昨日までは機嫌がよく、母乳栄養で体重増加は良好であった。咽頭は発赤を認めず、心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部

は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。大臍門は平坦である。体温38.5℃。脈拍140/分、整。呼吸数40/分。血液所見：赤血球380万、Hb12.6g/dL、白血球3,500、血小板25万。血液生化学所見：総ビリルビン5.3mg/dL、直接ビリルビン0.2mg/dL、AST48U/L、ALT44U/L、LD697U/L (基準314~737)、ALP836U/L (基準413~1,080)、尿素窒素10mg/dL、クレアチニン0.2mg/dL、血糖64mg/dL、Na138mEq/L、K4.3mEq/L、Cl105mEq/L。CRP0.3mg/dL。

両親に対する説明として適切なものはどれか。

a 「明日の外来を受診してください」
b 「重症感染症の疑いがあります」
c 「解熱薬を使用しましょう」
d 「肝機能異常があります」
e 「光線療法が必要です」

7. 23歳の男性。睡眠障害と全身倦怠感を主訴に産業医を訪れた。3か月前に就職し、1か月前から易疲労感を自覚するようになり、夜間十分に眠っても日中に強い眠気を感じるようになった。2週間前から食欲が低下し、やる気が起きないことが続き、仕事上の小さなミスも増えておりストレスが多いと感じている。産業医に自分の状況を相談した。

相談を受けた産業医の対応として最も適切なものはどれか。

a 特に何もしない。
b 直ちに休職させる。
c 医療機関の受診を勧める。
d もう少し様子をみるよう勧める。
e 他の同期入職者も頑張っているからと励ます。

8. 食道異物のうち、最も緊急に摘出する必要があるのはどれか。

a 魚 骨
b 硬 貨
c 歯 牙
d ボタン電池
e PTP (錠剤やカプセル剤の包装)

9. マタニティ・ブルーズについて正しいのはどれか。

a 症状は2か月以上続く。
b 産褥3~10日頃に発症する。
c 大半は産後うつ病に移行する。
d 症状として幻聴が特徴的である。
e 我が国の発症率は欧米よりも高い。

10. 足関節の可動域を測定して次の結果を得た。

	背 屈	底 屈
自動運動	不 能	45°
他動運動	20°	45°

考えられるのはどれか。

a 足関節拘縮
b 脛骨神経麻痺
c 総腓骨神経麻痺
d アキレス腱断裂
e 足関節靭帯損傷

宮崎県感染症発生動向 ～ 2 月 ～

平成30年 1 月29日～平成30年 2 月25日(第5週～第8週)

■全数報告の感染症

1 類：報告なし。

2 類：○結核13例(男性9例・女性4例)：保健所別報告数は【図1】，病型別報告数は【表1】，年齢別報告数は【表2】のとおりである。

3 類：報告なし。

4 類：○E型肝炎1例：日向保健所管内から報告があった。50歳代で，主な症状として発熱，全身倦怠感，食欲不振，黄疸，肝機能異常等がみられた。

○A型肝炎8例：宮崎市(7例)，都城(1例)保健所管内から報告があった。患者が6例，無症状病原体保有者が2例である。年齢別報告数は【表3】のとおりである。主な症状として全身倦怠感，発熱，食欲不振，黄疸，肝機能異常等がみられた。いずれもA型肝炎のワクチン接種歴，海外渡航歴は不明もしくはない。

5 類：○ウイルス性肝炎1例：宮崎市保健所管内から報告があった。50歳代で，病型はB型である。主な症状として全身倦怠感，発熱，肝機能異常，黄疸がみられた。

○急性脳炎4例：宮崎市(3例)，日向(1例)保健所管内から報告があった。0～4歳が2例，5～9歳が1例，70歳代が1例で，主な症状として発熱，嘔吐，痙攣，項部硬直，意識障害がみられた。原因病原体はインフルエンザウイルスA型が1例，インフルエンザウイルスB型が3例である。

○後天性免疫不全症候群4例：宮崎市(3例)，都城(1例)保健所管内から報告があった。30歳代が2例，40歳代が2例で，男性が3例，女性が1例である。病型はAIDSが2例で，感染初期が1例，多発性・難治性皮下膿瘍が1例である。AIDSの指標疾患はニューモシスティス肺炎，カンジダ症，サイトメガロウイルス感染症で，主な症状として発熱，咳嗽，多発性皮下膿瘍等がみられた。

○侵襲性インフルエンザ菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。0～4歳で，主な症状として発熱，肺炎がみられた。

○侵襲性肺炎球菌感染症3例：宮崎市保健所管内から報告があった。20歳代が1例，60歳代が2例で，主な症状として発熱，全身倦怠感，肺炎，菌血症等がみられた。肺炎球菌のワクチン接種歴はなしが1例，不明が2例である。

○百日咳7例：宮崎市(3例)，日向(2例)，延岡，中央(各1例)保健所管内から報告があった。0～4歳が1例，5～9歳が1例，10歳代が3例，30歳代が1例，70歳代が1例で，主な症状として持続する咳，夜間の咳き込み，スタカート，嘔吐等がみられた。

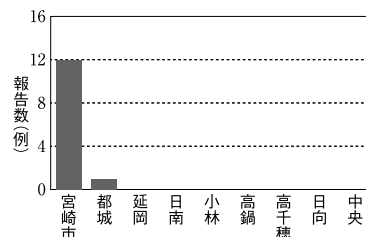


図1 結核 保健所別報告数

表1 結核 病型別報告数(例)

肺結核	4
肺結核及びその他の結核 (結核性胸膜炎，腸結核)	2
その他の結核(結核性胸膜炎)	2
無症状病原体保有者	5

表2 結核 年齢別報告数(例)

年齢	報告数
0～9歳	1
30歳代	1
50歳代	1
60歳代	5
70歳代	2
80歳代	2
90歳代	1

表3 A型肝炎 年齢別報告数(例)

10歳代	20歳代	30歳代	50歳代	60歳代
1	3	1	1	2

■病原体検出情報(微生物部)

	検出病原体	件
ウ イ ル ス	A型肝炎ウイルス(遺伝子型 1A)	3
	インフルエンザウイルスAH1pdm09	9
	インフルエンザウイルスAH3	1
	インフルエンザウイルスB(山形系統)	10
	コクサッキーウイルスA2型	1
	ヒトコロナウイルスOC43	2
細 菌	<i>Haemophilus influenzae</i> 莢膜型不明	1
	EPEC(O157:H40)	1

■5類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は13,235人(定点あたり260.0)で，前月の87%と減少したが，例年比では121%と増加した。

前月に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎(ロタウイルス)で、減少した主な疾患はインフルエンザと水痘である。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患はインフルエンザ、手足口病及び感染性胃腸炎(ロタウイルス)である。

インフルエンザの報告数は10,996人(186.4)で前月の約0.8倍、例年の約1.4倍である。小林(299.6)、延岡(235.0)、都城(233.7)保健所からの報告が多く、年齢別では10歳未満が全体の半数以上を占めている。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)の報告数は34人(4.9)で前月の約6.8倍、例年の約4.3倍である。日向(23.0)、高鍋(4.0)、宮崎市、延岡(各3.0)保健所からの報告が多く、1～4歳が全体の約8割を占めている。

■月報告対象疾患の発生動向 (2018年 2 月)

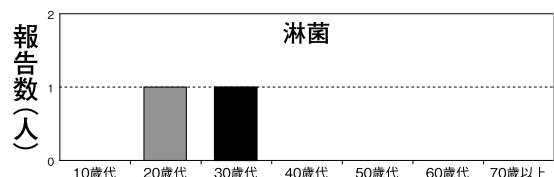
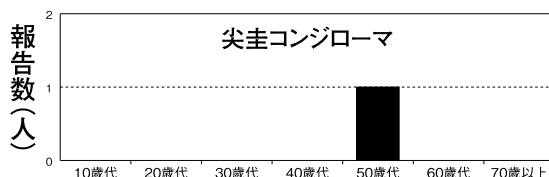
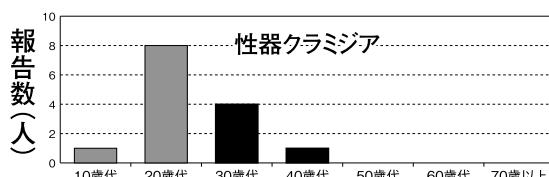
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は23人(1.8)で、前月比92%と減少した。また、昨年2月(3.1)の58%である。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数14人(1.1)で、前月及び昨年2月の0.7倍である。20～24歳が全体の半数を占めた。(男性5人・女性9人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数6人(0.46)で、前月の3.0倍、昨年2月の1.5倍である。(女性6人)
- 尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、昨年2月の約0.1倍である。(男性1人)(前月報告なし)
- 淋菌感染症：報告数2人(0.15)で、前月の約0.7倍、昨年2月の約0.2倍である。(男性1人・女性1人)



■ 男 ■ 女

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は18人(2.6)で、前月比120%と増加した。また、昨年2月と同率である。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数15人(2.1)で、前月と同率、昨年2月の約0.9倍である。70歳以上が全体の約7割を占めている。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数3人(0.43)で、昨年2月の3.0倍である。(前月報告なし)
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。(宮崎県衛生環境研究所)

前月との比較

	2018年 2 月		2018年 1 月		例年との比較
	報告数(人)	定点当たり(人)	報告数(人)	定点当たり(人)	
インフルエンザ	10,996	186.4	13,775	233.5	★
RSウイルス感染症	120	3.3	131	3.6	
咽頭結膜熱	67	1.9	83	2.3	
※溶レン菌咽頭炎	242	6.7	185	5.1	
感染性胃腸炎	1,390	38.6	1,280	35.6	
水痘	27	0.8	53	1.5	
手足口病	92	2.6	72	2.0	★
伝染性紅斑	7	0.2	4	0.1	
突発性発疹	96	2.7	83	2.3	
ヘルパンギーナ	10	0.3	2	0.1	
流行性耳下腺炎	100	2.8	87	2.4	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	54	9.0	48	8.0	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
マイコプラズマ肺炎	0	0.0	2	0.3	
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	34	4.9	5	0.7	★

★例年同時期(過去3年の平均)より報告数が多い
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

各都市医師会だより**児 湯 医 師 会**

今年の冬は例年以上に猛威をふるったインフルエンザ。一生自分にかかることはないとなぜか自信を持っていました。少し風邪気味でも一晩寝ると良くなるはずなのに、いつもと違う体の異変に嫌な予感は的中！生まれて初めて(?)インフルエンザB型と診断されました(鼻グリグリの痛さも知りました)。前々日夜、調子に乗って3次会まで飲んだあげく、リビングのソファで涼しく一晩すごしたことを反省し、やはり日頃の体調管理が重要だと改めて思いました。自然治癒能力を期待し、抗インフルエンザ薬を内服せず、非ステロイド性消炎鎮痛薬のみで対応し、仕事を休んだのですが、あまり高熱で苦しむこともなく、自宅療養していました。国立感染症研究所ホームページによると、例年とは異なる流行パターンを示しており、週間推計受診患者数のピーク値、累積推計受診患者・入院患者数などそれぞれ大きく上回っているようです。また、近年は、AH3亜型若しくはAH1pdm09亜型が1年間隔で流行の主体が、今シーズンは、流行の開始頃からB型が流行の主体となっていました。そうこうしているうちに、インフルエンザに代わって花粉症の患者が増加傾向で、春の訪れを感じる今日この頃です。

国道10号線の新富市街地から宮崎市佐土原町までの4車線化が2月によりやく完成し、一ツ瀬川付近の交通混雑もかなり緩和されました。在宅医療・認知症など研修会開催や、医師会予算案での赤字など他の医師会と同様と思いますが、日々診療をこなしていきたいと思います

(野津手 大輔)

宮 崎 市 郡 医 師 会

宮崎市夜間急病センター小児科の深夜診療を今後も存続するために「県央地区における小児救急医療の確保に関する検討会」を宮崎市、宮崎県、宮崎大学小児科、県立宮崎病院小児科、宮崎県医師会、宮崎市郡小児科医会、宮崎市郡医師会の7者で昨年度は3回開催した。既に限界を超えて宮崎大学小児科、県立宮崎病院小児科、宮崎市郡小児科医会等の小児科医が救急医療を支えていることがこの会で認識できた。決定的な打開策は各団体とも打ち出すことはできなかったが、今後も小児救急医療を確保するために継続して話し合うことが了承された。

(高村 一志)

都 城 北 諸 県 郡 医 師 会

遅ればせながら都城地域(都城市・三股町)でも対策型内視鏡検診の検討が始まっています。ガイドラインの内容が厳しく、当地域では大変骨の折れる検診だと感じていますが、住民の健康を守る立場から委員会の先生方と行政と当地域に適した内容を模索し検討しています。取りまとめるのは非常に大変ですが…。導入した市町村の例を見ると受診者が増える傾向にあるということです。県内最低の当地域の胃がん検診受診率が万年最下位争いから脱却できるかも…と密かに期待しています。

(宇宿 修隆)

延 岡 市 医 師 会

先月28日に宮崎市と延岡市のダブル市長選挙が行われた。宮崎市では現職が勝利し、延岡市には新市長が誕生した。延岡市の新市長の選挙公約を見て思ったことであるが、医療が適切に行われるためには、医師会と行政が協力し合い上手く連携していくことが必要である。延岡市の場合、医師の高齢化・小児科医の不足に市民の高齢化・少子化が著しい。政府の政策に従うだけ、市民の希望を聞くだけの行政では、医療は破綻すると考える。延岡新市長には、是非とも医師会の実情、市民の現況、そして市の経済状態を考慮して市政を行っていただきたい。

(丸山 洋一郎)

日 向 市 東 臼 杵 郡 医 師 会

高校生の就職内定率が報道され、数字の上で就職環境の改善が見られる中、看護学校受験志望者の減少が気になりとなっていました。予想通り、今年度も受験者が減り、三次試験まで実施いたしました。定員32名に対し、推薦入試を含め39名(新卒21名、既卒18名)の受験者で34名の合格という結果となりました。

今後、新卒受験者を確保するためには、高校進路説明会において看護職がやりがいのある仕事であること、准看護師資格取得が経済要因に左右されない将来性のある資格であり、就職に有利な資格であること等の説明を積極的に行っていくことが大事であると考えています。

平成30年度は看護学校運営委員会の新たな設置と、学校規則の職員組織を改正し、看護学校事業を医師会事業の重点事項の一つとして取り組んでいくこととしています。

(渡邊 康久)

西 都 市 西 児 湯 医 師 会

3月某日に宮崎市郡医師会の理事の先生方と、当医師会の理事との意見交換会を開催させてい

たきました。救急医療に関して当医師会の力不足により、宮崎市郡医師会の先生方へお世話になっている感謝を述べさせていただき、またお互いの抱えている案件に関して議論を深めさせていただきました。その後の懇親会でも楽しく有意義な時間が持てました。こういった意見交換会で、宮崎県内の多くの医師会の方と議論することができれば、強固な人間関係を築けると改めて思いました。

(大塚 康二期)

南 那 珂 医 師 会

昨今の人口減少と高齢化で、私も日南串間地区も担い手不足に拍車がかかっております。当医師会では、以前より医療介護従事者間の情報交換や連携、研鑽の場として在宅ケア研究会を行っておりますが、昨年度より私の所属している串間地区で、日南地区同様に在宅ケア研究会運営委員会を立ち上げ、更なる内容の充実と連携強化を目指しています。今後も地域住民のみなさまに充足した医療介護を提供できるよう医師会理事・会員の先生方一丸となって取り組んでいく所存です。

(岡村 武志)

西 諸 医 師 会

昨年7月に当医療圏の分娩施設が皆無となりましたが、宮崎大学産婦人科教室の多大なるご助力により、昨年5月に再開されました小林市立病院における週2回の産婦人科外来診療が、本年7月には週日対応へと拡大されます。分娩再開に向けては未だ多くの問題が残っていますが、関係者の皆様のご協力ご理解のもと鋭意準備中です。一方、本年4月からの実施が義務化されている在宅医療・介護連携推進事業については2市1町共同での準備となりました。他の自治体に後れを取ることがないように行政と西諸医師会を中心に待たなして議論を重ねています。

(坪内 斉志)

宮崎大学医学部だより

病態解析医学講座 救急・災害医学分野



おちあい ひでのぶ
落合 秀信 教授

宮崎大学医学部附属病院救命救急センターは、ささやかながら昨年開所5周年記念祝賀会を開催させていただきました。祝賀会には県医師会、郡市医師会、医療機関、消防、県などから多数ご参加

いただき、期待の大きさにあらためて身が引き締まる思いでした。スタッフ一同この場をお借りして感謝申し上げます。

現在のスタッフは、教授1名、病院准教授2名、助教6名、救急科専攻医2名の11名で、院内各診療科のご協力のもと、ER、ドクターヘリ、ドクターカー、重症外傷診療、集中治療など幅広い救急診療を行っています。また、専攻医研修の一環として国内留学も積極的に行っており、現在3名が外傷外科、ER型救急、そして総合診療を極めるべく修行中です。次年度は2名が、中毒並びに重症外傷のエキスパートを目指して国内留学の予定です。彼らが成長して戻ってきて宮崎の救急医療をさらに発展させてくれることをスタッフ一同楽しみにしているところです。

診療におきましては、県内各救急拠点病院に常勤医師を派遣し充実を図った結果、大学の患者数は減少しました。その一方で重症率は年々上昇しています。患者の内訳は、多発外傷などの外因性疾患が6割程度、内因性疾患が4割程度です。当然ですが特殊救急疾患(重症熱傷、重症中毒、多発外傷)の診療も行っております。

一方、「病院まで持たない命をつなぐ」をコンセプトに開始したドクターヘリも総要請件数が3,000件を超えました。重症外傷に対する現場出動が多く、外傷センターそして医療過疎地へのバックアップ機能も十分果たせていると思います。また、ドクターカーも、準夜帯の限られた運用であるにも関わらず年間100件程度の出

動があり、北は諸塚村から南は串間市、そして西はえびの市まで県内全域に出動しています。さらに陸路到達困難な地域での重症救急にも迅速に対応するために県と協定を結び開始した防災ヘリコプターによる救急現場医師投入もこれまで2件の活動実績があり、全国でもトップレベルの病院前救急診療を展開しています。

研修医教育におきましては、「地域で最強の救急医育成」を合言葉に、卒後3年目の救急科専攻医を診療チームのリーダーとする独自の教育方法を行ってきました。この教育方法について先日アンケートをとりましたところ、「つらい面もあるが指導医の掌の中で多くの症例を経験でき、早く実力をつけることができる」とも良いシステム」という意見を専攻医から多くいただきました。このアンケート結果は、昨年の日本救急医学会総会・学術集会のパネルディスカッション関連セッションで報告し、大きな反響をいただきました。今後も幅広く専攻医の意見を取りいれて、さらに効果的な教育システムとなるようup dateしていきたいと思っております。

研究面では、外傷診療ネットワーク構築、補体系と凝固系のクロストーク、航空医療システム、重症頭部外傷の治療、急性期脳梗塞の遠隔診療支援体制の構築、災害医療などに関する研究を行っており、欧文誌や和文誌にその成果を報告しています。

国際連携としては、カリフォルニア大学アーバイン校(UCI)救急医学へ定期的に訪問しスタッフ交流を深めています。また、これまでタイ、中国、南スーダンからの留学生受け入れも行っています。

最後に、まだまだ若い教室ではありますが皆様方のご支援のおかげで診療のみならず、教育や研究、国際連携においても少しずつ前進することができました。

今後も宮崎県の救急医療の最後の砦として、そして「地域で最強の救急医」を育成する機関として、微力ながら精一杯邁進していく所存ですので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

専 門 分 科 医 会 だ よ り

(内科医会)



ひが としのぶ 会長

宮崎県内科医会は、会員数427名（平成30年2月28日現在）を擁する県医師会で最も会員数の多い分科医会です。内科医会の目的は「医道の高揚・学術の研鑽・医業経営の改善と併せて、会員相互の親睦を図るもの」とされています。役員は会長1名、副会

長は宮崎市、都城市、延岡市から各1名の3人、常任理事1名です。理事は現在宮崎市郡から6人、各郡市から6人、また監事2名です。一方宮崎大学医学部内科学講座の4人の教授の先生方には参与として入っていただいています。事業運営していくうえで、学術委員会、医療保険委員会、会誌編集委員会の3委員会を設置しています。学術委員会(年3回ほど開催)は主に総会の企画・立案、医療保険委員会(年3回開催)は保険診療に関し審査基準の統一化、審査上の問題点など会員への情報提供、会誌編集委員会(年4回開催)は年2回の会誌発刊について協議しています。

総会は年度初めの6月、年度終わりの3月の年2回実施しています。前者は予算の決算報告とその年度の事業計画の報告、更には講演会を2つ企画し開催しています。後者は次年度の事業計画(案)と暫定予算(案)を審議していただきます。また会員発表、保険診療に関する話題提供、特別講演を企画します。そのほか理事会年3回、評議委員会年2回、会計監査年1回、各郡市内科医会長会年1回実施されます。対外的には、九州ブロックでの集会が年1回、各県持ち回りであります。ブロック会議では日本臨床内科医会(以後日臨内)からの事業報告、現段階での問題点などについて報告を受けます。九州各県内科医会連絡協議会では国の医療政策などに対するあらかじめ各県から提案された協議事項を、その解決策につき話し合う場です。九州各県審査委員懇話会では保険診療上の問題を話

し合います。各県の審査上の問題につき均てん化を図ろうとするものです。

一方、日臨内との連携を謳い、年1回総会(春、東京開催)、医学会(秋開催)にも積極的に参加しています。なお医学会開催県は各県手上げ方式ですが、残念ながら宮崎はまだ開催県になっておりません。今後、会長の強いリーダーシップのもと主催県となる日が来ればいいかと思っています。

さて昨今の医療情勢を見ていると、医療に対してははなはだ厳しいものがあり逆風が吹いているように見えます。医療保険上では国の医療費抑制策により厳しいものがあり、内科系は目に見えない技術を正当に評価していただきたいと切に願っています。今年度、医療・介護保険のダブル改定では地域医療構想に則って在宅医療にますますシフトしていくものと思われる、内科医を中心に連携を想定した医療を推進するかかりつけ医の増加は必要なことと思われます。

また学術的には、医学の日進月歩にあわせ、専門医研修・かかりつけ医としての研修など日々研鑽を強いられています。かかりつけ医としては、厚労省のすすめる地域包括診療料・地域包括診療加算を取得するためのハードルは高く、日本医師会の唱えるかかりつけ医の方向性とややベクトルがずれている感じがして、その整合性に努力して欲しいものです。同じ研修をするにしても共通講習として認め合う姿勢があった方が多くの医師から受け入れられやすいと思うし、かかりつけ医を増やし、育てるためにも必要なことと感じます。多くの医師、ことに内科医が参集できるシステム作りは大いに必要なことと思えます。

時代の流れで、他科の医会との協力・連携もますます必要な時代です。連携と集約、縦の協力・横の連携、内科医会としても大いに協力しながら、県医師会発展のためにも尽くしていこうと考えています。

(常任理事 光川 知宏)

－ 各種委員会－

医 学 会 誌 編 集 委 員 会

と き 平成30年3月7日(水)

ところ 県 医 師 会 館

嶋本理事の司会により開会，小牧常任理事の挨拶に続き，協議が行われた。

掲載論文15編からなる第42巻第1号のカテゴリの検討が行われ，総説2編，臨床研究1編，症例9編，診療2編，地域医療3編，クリニカルカンファレンス1編と，編集後記執筆担当者を決定した。

第41巻第2号総説の執筆依頼については，候補者の中から最終的な依頼先を委員長が選定することが承認された。

また現在，医学中央雑誌のウェブ機関「医中誌WEB」において，本会誌の本文閲覧ができないことから，本会ホームページへのリンク接続



を依頼することについて提案がなされ，費用や作業量等を確認の上，委員会にて引き続き検討することとなった。

出席者－松岡委員長，河野副委員長，姫路・中谷・甲斐・後藤・黒川・黒岩・大西・中馬・牧元・武田・松本・稲津・竹永・阿南委員

(県医) 嶋本担当理事，小牧副担当理事
牧野課長，横山主事

3月のベストセラー (宮崎県)

集計：2018年3月1日～3月25日

1 ラプラスの魔女	東 野 圭 吾	KADOKAWA
2 漫画版 君たちはどう生きるか	吉 野 源 三 郎	マガジンハウス
3 おらおらでひとりいぐも	若 竹 千 佐 子	河出書房新社
4 秋霖やまず	佐 伯 泰 英	光 文 社
5 君たちはどう生きるか	吉 野 源 三 郎	マガジンハウス
6 L i l y	石 田 ゆ り 子	文 藝 春 秋
7 日本史の内幕	磯 田 道 史	中央公論新社
8 ほどよく距離を置きなさい	湯 川 久 子	サンマーク出版
9 億男	川 村 元 氣	文 藝 春 秋
10 青くて痛くて脆い	住 野 よ る	KADOKAWA

明林堂書店調べ 提供：本郷店(宮崎市大字本郷北方) ☎(0985)56-0868

宮崎県医師会創立129周年記念医学会・県民健康セミナー

と き 平成30年 2 月25日(日)

ところ 県 医 師 会 館

本年度は創立記念医学会と県民健康セミナーを同時開催した。

挨拶(要旨)

県医師会長 河野 雅行

本日は、創立129周年記念医学会にご出席賜り心より御礼申し上げます。

今年は、本会の創立記念日である2月25日が日曜日となり、県民の皆さまに「医師会活動」をより身近に感じていただきたく、県民健康セミナーと宮崎県医師会創立129周年記念医学会を、同時開催とさせていただいた。

宮崎県医師会は明治22年、今の宮崎県ができて間もないころ、日清戦争よりも昔に発足した。私が32代目の会長となり、発足以来129年、県民の健康を守るという目的は変わらず、先人達の想いを受け継ぎ、今日の日を迎えている。

本日は、県医師会医学賞贈呈式、医学賞講演、特別講演2題を予定している。最後までご静聴をよろしくお願いいたします。

県医師会医学賞贈呈

嶋本理事から、12月8日に開催された医学賞選考委員会において、宮崎県医師会医学会誌第40巻第1号及び第2号の論文の中より、加藤丈司先生の「清武地域における23年間の健診結果

の解析と今後の課題」が医学賞に推薦され、全理事協議会で決定された旨の説明があり、その後、加藤先生に河野会長から表彰状が贈呈された。

医学賞講演

嶋本理事の座長により、今回医学賞を受賞された加藤丈司先生に、受賞論文の概要をご講演いただいた。

特別講演

特別講演Ⅰでは、中山健先生の座長により、宮崎県歯科医師会理事で青山歯科医院院長の青山修先生に「口腔ケアで、オーラルフレイルから健康へ」と題してご講演いただき、歯周病と他の疾患との関係や、口腔ケアを行うことで食事を美味しく食べられるようになった結果、フレイルが改善された高齢者の例などを分かりやすくご講演いただいた。

また、特別講演Ⅱでは田中俊正先生の座長により宮崎大学医学部整形外科教授帖佐悦男先生に「ロコモティブシンドロームを予防しよう！いつまでも自分の脚で歩くために」と題してご講演いただいた。県民への認知も進みつつある本題について、まずは自分の身体の状態を知り、無理のない範囲での日常的運動を呼びかけるもので、県民の意識を高める有意義な講演であった。



第2回 各都市医師会長協議会

と き 平成30年2月6日(火)

ところ 県 医 師 会 館

立元常任理事の司会で開会し、報告及び協議に入った。

報告及び協議

1 1/16(火)(日医)都道府県医師会長協議会について

河野会長が、各都道府県医師会及び日本医師会から提出された12の協議事項について要点をまとめ報告を行った。

- ①医療苦情相談情報の全国集計システム
(広島県)
- ②日医かかりつけ医機能の推進とゲートキーパー機能について
(徳島県)
- ③小規模入院施設の今後
(山口県)
- ④有料職業紹介所について
(神奈川県)
- ⑤「地域医療支援センター」並びに、新専門医制度に係る「都道府県協議会」の各都道府県医師会の関与について
(沖縄県)
- ⑥インフルエンザワクチンの安定供給について
(長野県)
- ⑦消費税、事業性の非課税措置について
(兵庫県)
- ⑧精神疾患を有する患者の自殺に対する医師の賠償責任について
(秋田県)
- ⑨医療事故調査等支援団体等連絡協議会の運営にかかる経費助成について
(愛知県)
- ⑩勤務医の長時間労働、残業手当に関する是正勧告について
(岡山県)
- ⑪我が国の優れた国民皆保険制度の理解と現状を国民が考え議論する場の提供について
(埼玉県)
- ⑫医師の働き方に関する都道府県医師会アンケート調査結果について
(日医)

2 1/16(火)(日医)日本医師連盟執行委員会について

河野会長が、日医連の人事、平成28年度収支決算、平成30年度の負担金基準額等の報告を行った。

3 訪問看護の現状等について(宮崎市郡医師会)

川名会長から、新聞紙面に県行政が新卒の看護師を訪問看護師として育成する取組みを始めたと掲載されていたが、現状を知りたいとの質問があり、池井常任理事が、新卒訪問看護師育成スタートアップ標準プログラムを含め、その概要を説明した。

4 医療事故調査制度について

濱田副会長が、制度発足後2年が経過し、県医師会医療事故調査支援委員会を中心に、対象判断を含む初期支援9件、院内事故調査支援14件を行った。報告件数は2年目を迎え少し落ち着いてきたが、今後も人材育成も含め、積極的に支援していきたいと説明した。

5 医師資格証について

立元常任理事が、昨年末の厚労省通知及び県医師会のFAXニュース等を用い、医師資格証で医師免許証と同様身分確認が可能であることを説明し、各都市医師会に対し医師資格証の取得拡大を要請した。

6 第7次宮崎県医療計画について

池井常任理事が、今回の計画は、2次医療圏の変更なく、既存病床数は全て基準病床数を上回っていること、5疾病5事業、在宅の全ての分野でかかりつけ医の役割が明記され、精神疾患(圏域の変更)、救急医療(行政の関与)、周産期医療(医療計画への追加)等

で変更が行われたこと等の説明を行った。

7 医師の働き方改革について

池井常任理事が、厚労省の「医師の働き方改革に関する検討会」が示した中間とりまとめの骨子案について、緊急的に取り組む課題として、医師の労働時間管理の適正化、36協定の自己点検等が挙げられており、医療機関への影響も大きいことから、正確な情報把握に努めると共に病院部会や医療法人部会、また県の委託により設置されている宮崎県医療勤務環境改善支援センターとも連携して対応する旨の説明を行った。

8 平成30年度専攻医数について

金丸常任理事が、日本専門医機構が発表した専攻医の一次登録領域別採用状況を用い、宮崎県の専攻医数が30名という大変厳しい数字で、このままでは地域医療も崩壊しかねない状況であることから、関係機関に働きかけを行うと共に、河野会長が日本医師会に要望するよう準備を進めている旨の説明を行った。

出席者

各都市医師会

川名(宮崎)・飯田(都城)・吉田(延岡)・渡邊(日向)・永友(児湯)・松本(西都)・島田(南那珂)・内村(西諸)・
鯨島(宮大医)会長

県医師会

河野会長，富田・濱田副会長，立元・吉田・小牧・荒木・池井・金丸・佐々木(幸)・高村・石川常任理事，峰松・川野・佐藤・佐々木(究)・岩村・糸数・花田・帖佐・嶋本理事

事務局

山内事務局長，竹崎次長，久永・松本・牧野課長，田崎主事，
杉田医師国保事務長心得

あなたできますか？（解答）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
b, d	a	b	b	d	b	c	d	b	c

九州医師会連合会救急・災害医療担当理事連絡協議会 第2回九州ブロック災害医療研修会

と き 平成30年1月20日(土)

ところ ホテル日航福岡

(1) 災害派遣チームの活動について(長崎県)

<提案要旨>

災害派遣チームと称して活動するものに全日病や都道府県などによって編成される、あるいは単独の医療機関独自で構成したチームなど、県医師会が直接関知し得ないチームが有り、時に出動先で混乱を招いている(発災直後に出発してしまうために把握のしようがない)。このような場合において各県での対応についてお伺いしたい。

(2) 災害医療救護チーム派遣に係る派遣元医療機関とのコンセンサスについて(福岡県)

<提案要旨>

災害拠点病院は、DMATを含め、多方面から医療救護班の派遣要請を受ける。福岡県では、災害時には、県医療救護調整本部に情報を一元化し、県災害医療コーディネーターの調整により災害医療の提供を行う方針であるが、平時より医療救護チームを派遣する医療機関には、本県の活動方針について合意形成を図っておく必要がある。各県での災害医療救護チーム派遣に係る派遣元医療機関とのコンセンサスの状況及び対応についてお伺いしたい。

(1)と(2)は一括で協議された。

各県回答 単独の医療機関独自で構成したチームについて、特定の病院の支援ではなく被災地域を広く支援するためのものであるのなら、JMATとして派遣されるべきである。災害時に県行政に設置される「保健医療調整本部」を適切に機能させて、派遣チームの調



整、情報連携を行うことが重要であり、災害医療コーディネーターを中心に調整を図るべきとの意見があった。

チーム派遣に係る派遣元医療機関との連絡調整については、各県ともに平時から調整の必要性を感じているもののコンセンサスを得る状況までに至っておらず、今後行政や関係機関と検討を進めたいとの回答であった。

(3) 九州医師会連合会災害時医療救護協定の運用について(鹿児島県)

<提案要旨>

本協定は平成26年7月4日に締結され、平成28年熊本地震において初めて実践的に運用された。

熊本地震では、当時の九医連担当県であった長崎県医が幹事医師会として、熊本県医、日医、九州各県医師会と連携し対応を行った。熊本地震での医療支援活動の気づき等を踏まえ、実質的な運用をより具体的に進めるべきと考える(例えば、緊急時連絡体制、幹事医師会の初動、JMAT先遣隊・ロジスティックスの支援など)。各県の意見をお伺いしたい。

(4) 災害医療に関する研修会の開催状況と九州ブロック災害医療研修会の今後の在り方について(鹿児島県)

＜提案要旨＞

鹿児島県においては、県、医療関係団体(県歯科医師会・県薬剤師会・県看護協会・県栄養士会)の後援を得て、12月から4回シリーズで、災害医療講習会を開催している。他県の災害医療に関する研修などの実績と計画があればお聞きしたい。また、来年度は本県が九医連担当県として、九州ブロックの研修会を企画する予定である。研修会の今後のあり方(対象者、内容など)について、各県の意見をお伺いしたい。

(3)と(4)は一括で協議された。

各県回答 熊本地震発災時の幹事県医師会であった長崎県医から、被災地の正確な情報が伝わってこず、九医連で災害協定を結んでいるものの実際に何をすればよいか分からなかったため、日医との連絡係に徹する形になったとの説明があった。各県とも協定の実質的な運用について早急な検討が必要との意見であり、まず各県で協定の改訂案等について検討を進めて、次年度の本協議会等で運用について再度協議することとなった。

九州ブロック研修会の今後のあり方については、医師会としてのコーディネート機能を高める研修を求める意見があった。また、各県のオリジナリティを持った研修を重ねることが重要である、研修会に行政担当者にも参加してもらうことも検討してはどうか等の意見があった。

(5) 地域災害医療コーディネーター養成の進捗状況について(佐賀県)

＜提案要旨＞

佐賀県では、県の主催により、地域災害医療コーディネーター養成のための研修会が平成30年2月18日に開催される予定であり、平

成31年度までに60名を養成することとなっている。各県の地域災害医療コーディネーター養成の進捗状況についてお聞きしたい。

(6) 災害医療コーディネート研修の実施状況について(沖縄県)

＜提案要旨＞

大規模災害が発生した場合に必要とされる災害医療コーディネーターの任命が全国各地で増えているが、各県において県単位や地区単位で災害医療コーディネート研修やフォローアップ研修等の取組みについてお伺いしたい。

(5)と(6)は一括で協議された。

各県回答 「コーディネーター研修」と「コーディネート研修」の違いとして、「コーディネーター研修」はコーディネーターを養成するための研修、「コーディネート研修」は災害時の医療資源等を調整する際にその質の向上を目指す研修と整理した上で、各県の状況について報告があった。

宮崎県では、県行政が28名の医師に宮崎県災害医療コーディネーターを委嘱している(平成29年12月8日現在)。28名の内訳として、12名は県医師会および各郡市医師会が推薦し、その他の16名は県がDMATや災害拠点病院から選定している。災害医療コーディネート研修については、県行政が主体となり、県災害医療コーディネーター等を対象に年に1回開催されている。

(7) 災害時における災害医療コーディネート体制と多機関・多職種連携について(熊本県)

＜提案要旨＞

平成29年度策定の第7次医療計画の策定に併せて「医療救護活動」を迅速かつ適切に行うため、医療従事者(医療救護班、関係団体)及び行政職員が共有することを目的とした災害時医療救護マニュアル作成が開始され、平成29年11月の熊本県災害医療提供体制検討委員

会においてマニュアルの暫定版が示された。マニュアル作成後は市町村と郡市医師会の災害時の連携体制と地域包括ケアシステムを活用した被災地での医療と福祉の連携体制の構築が重要と考える。各県の状況についてお伺いしたい。

(8) 県医師会の災害時の医療計画やマニュアルについて(宮崎県)

<提案要旨>

現在、県医師会災害医療計画の見直しを行っている。新計画ではJMATや災害医療コーディネーターなどの新たな概念も取り入れ、また、あまり細かく規定することで実際の活動に支障をきたすことのないよう、分かりやすくシンプルなものにしたいと考えている。しかしながら、様々な事項や場合分けが想定され、どこまで盛り込むべきか検討をしている。各県における災害医療計画やマニュアルの策定状況とその特色などをご教授いただきたい。

(7)と(8)は一括で協議された。

各県回答 各県とも災害時における地域包括ケアシステムとの連携体制については、まだ検討が及んでいない状況であった。県医師会の災害対応マニュアルは、ほとんどの県が策定の検討や見直し作業を行っており、福岡県医からは平成29年7月に策定された「福岡県医師会災害医療プログラム(カテゴリーⅡ)」が紹介された。

行政、関係団体を含めて平時からの連携体制の強化が重要であるとの意見が多数あった。

(9) 水害・土砂災害に係わる要配慮者利用施設の避難計画作成、訓練の各県の状況について(大分県)

<提案要旨>

水防法の一部を改正する法律(平成29年5月19日法律第31号)の施行に伴い、市町村地域防災計画に定められた洪水等の浸水想定区

域内または土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設の管理者に対し、避難確保計画の作成、訓練の実施が義務づけられた。各県の取り組みについてお聞きしたい。

各県回答 各県とも行政(県・市町村)から周知が行われており、避難確保計画の作成等はまだ十分に浸透していない状況であった。

(10) NBC (Nuclear: 核, Biological: 生物, Chemical: 科学物質)災害対策の各県の取り組みについて(大分県)

<提案要旨>

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催、最近の国内外の状況などを考えると、テロ対策等は喫緊の課題であり、放射線災害、生物災害、化学物質災害などのNBC災害対策も重要である。各県の取り組みについてお聞きしたい。

各県回答 各県とも県行政等主催の研修や訓練が行われており、参画しているとの回答であった。また、化学兵器によるテロなどの被害を想定して知識を有しておくことが重要であるため、日医から関係する研修の受講を求める意見があった。

(11) PHV・EV車両を活用した医療機器への電源供給・実証実験について【情報提供】

(沖縄県)

<提案要旨>

熊本地震においてPHVが投光器の電源として活用された事例に着目し、医療機関での活用の可能性について、県内自動車メーカー及び医療機器取扱業者と連携し、本年11月24日より26日までの約40時間、実証実験を実施した。当実験では、PHV・EV車両から実際に電気を取り、医療機器(人工呼吸器/酸素濃縮機装置/保冷库/モニター類/ポンプ類)が安定的に稼働するか確認を行ったので、情報提供をしたい。

沖縄県医の報告

以下のとおり報告があり、PHV・EVは災害時の医療用の非常用電源として実用性が高いとの説明があった。詳細は日医雑誌に投稿される予定となっている。

- ・PHVとEV、医療機器ともに正常に作動した。
- ・電流波形はノイズが認められたが、医療機器への影響はなく安定した電源供給が可能であった。
- ・PHVは燃料を補給すれば長期間の給電が可能である。
- ・EVは排気ガスがゼロのため、屋内においても使用が可能である。
- ・移動性にも優れているため迅速な対応が可能である。

関連行事

第2回九州ブロック災害医療研修会

救急・災害医療担当理事連絡協議会の前後に第2回九州ブロック災害医療研修会が下記の通り開催された。2日目の研修については、福岡

市民病院救急科医長の野田栄一郎先生をディレクター、九州各県の基幹病院の救急科医師8名（宮崎からは宮崎大学医学部救急・災害医学分野の落合秀信教授）をファシリテーターとして、各県ごとに災害対策本部運営机上シミュレーションとグループワークが行われた。

1月20日

講義1「災害医療の理論と実際－福岡県医師会災害医療プログラム カテゴリーⅡをふまえて－」

救急振興財団救急救命九州研修所 教授

郡山 一明 先生

講義2「JMAT－WGについて」

日本医師会 常任理事 石川 広己 先生

1月21日

グループワーク1 「各県医師会災害対策本部運営机上シミュレーション」

グループワーク2 「各県医師会災害対応マニュアル策定、改訂に向けて」

出席者 富田副会長、小牧・佐々木(幸)常任理事、米澤理事、久永課長、鳥井元課長補佐



九州医師会連合会第369回常任委員会

と き 平成30年3月3日(土)

ところ ホテルニューオータニ博多

1 開 会

2 九州医師会連合会長挨拶

福岡県医師会長 松田 峻一良

3 報 告

1) 日本医師会選挙管理委員会委員及び予備選挙管理委員について(福岡)

任期を平成30年4月1日から2年間とする選挙管理委員に鹿児島県の川原裕一先生、佐賀県の枝國源一郎先生、予備選挙管理委員に鹿児島県の波多江正紀先生、佐賀県の山元章生先生を日本医師会に推薦した旨報告があった。

2) 滋賀県医師会長 故 猪飼 剛先生お別れの会への対応について(福岡)

3) その他

4 協議

1) 第141回日本医師会臨時代議員会(3月25日(日))における九州ブロック代表質問並びに個人質問について(福岡)

協議の結果、代表質問に宮崎県河野会長の「新専門医制度は、地域医療に配慮した取り組みとなっているのか」個人質問には長崎県の朝永代議員の「生活保護法における医療要否意見書について」と福岡県の寺坂代議員の「医師の働き方改革について(勤務医の立場から)」に決定した。

2) 日本医師・従業員国民年金基金第12期代議員候補者の推薦について(福岡)

日本医師・従業員国民年金基金は、平成31年4月1日から国民年金基金へ合併することから、現代議員である長崎県の河原郁夫先生と鹿児島県の持富勇次先生を継続して推薦することが決定された。

3) 九州ブロック認定産業医制度基礎・生涯研修会について(福岡)



平成30年度の研修会は、平成30年6月9日(土)、10日(日)に産業医科大学実務研修センターで開催することが了承された。

4) その他

5 その他

1) 九医連各種会議の開催のあり方について(鹿児島)

各種協議会以外の担当理事連絡協議会の開催については、当番県が開催の有無の判断を行い、必要に応じて常任委員会に諮ることが確認された。

ただし、感染症担当理事連絡協議会とHIV医療講演会は、平成29年度の開催地であった沖縄県をスタートとし、九医連当番の順序により、次回は大分県で開催する方向で協議していくこととなった。

また、九医連での開催会議の増加に伴い、各県負担金として九医連は会員1人当たり1,500円、九医学は2,500円としている現行の金額を総額は変えずに割合を変更することが提案された。今後の段取りとして、次回4月7日の常任委員会でこの件を協議し、変更する場合は、8月の九医連定例委員総会に提案していくことが確認された。

出席者－河野会長、山内事務局長

公 示

宮崎県医師会役員等の選挙について (第167回宮崎県医師会臨時代議員会の開催について)

公益社団法人宮崎県医師会は、本会定款第21・32・33・36・39・54条、施行細則第9～11条及び選挙細則第1～第10条並びに日本医師会定款第15条及び第16条等の規定に基づき、各郡市医師会から選出された代議員による第167回臨時代議員会を開催し、下記の選挙を行います。候補者になろうとする方は、期日までに届け出をお願いします。

選挙施行期日及び場所

第167回宮崎県医師会臨時代議員会

期 日：平成30年5月22日（火） 19：00～ 場 所：宮崎県医師会館 2階研修室

宮崎県医師会役員等

会長候補者 1名 監 事 3名
副会長候補者 2名 裁定委員 11名
理 事 15名以上23名以内（会長、副会長及び常任理事を含む）

※任期は、選任（平成30年5月22日）後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定例代議員会（平成32年6月に開催予定）終結の時までとなりますが、就任は、現役員の任期が満了する定例代議員会（平成30年6月16日）終結後となります（宮崎県医師会定款第39条による）。

※選出する本会の理事定数は、平成30年5月22日に開催する臨時代議員会で決定し、その後、役員等の選挙を行います。

※本会定款第36条により、臨時代議員会で選出された会長候補者及び副会長候補者を、後日開催する理事会で、会長及び副会長に選定します。また、同理事会で、理事の中から常任理事（8名以上12名以内）を選定します。

日本医師会代議員等

代 議 員 4名

予備代議員 4名

※任期は、日本医師会定款第15条により、選出後最初の定例代議員会開催日（平成30年6月23日（土））から、2年後の定例代議員会開催日（平成32年6月27日（土）予定）の前日までとなります。

立候補届出及び推薦届出について

- 1) 候補者になろうとするものは、選挙細則第4条により、選挙期日7日前までの平日（今回は平成30年5月15日（火）午後5時まで）、その旨を所定の書面により宮崎県医師会事務局を経由して、宮崎県医師会会長に届け出てください。
- 2) 会員が他の会員を候補者として推薦する場合には、本人の承諾書を添え、推薦者が所定の書面により、宮崎県医師会事務局を経由して宮崎県医師会会長に届け出てください。
- 3) 立候補届出及び推薦届出には候補者の経歴表を添付してください。
不明な点は、宮崎県医師会事務局（総務課）までお尋ねください。

平成30年4月10日 公益社団法人宮崎県医師会

日医インターネットニュースから

■介護医療院、3年で「10万床」転換 — 鈴木常任理事 —

鈴木邦彦常任理事は、2018年度介護報酬改定で新設される介護医療院について、検討当初から訴え続けてきた通り「魅力的な選択肢になった」と高く評価した。改定後は介護療養型医療施設(介護療養病床)と医療療養25対1(療養病床入院基本料2)からの転換が「かなり進むのではないかと述べ、今後3年間で「10万床くらい」転換する可能性がある」と見通した。メディファックスの取材に応えた。

介護医療院への転換を後押しする要素としては、▽介護療養病床と同等以上の基本報酬、1日当たり93単位の移行定着支援加算(21年3月末まで、1年間に限り算定可能)▽診療報酬の在宅復帰率要件において居住系介護施設などと同様の取り扱い▽療養室などに関する大規模改修までの経過措置—を挙げた。さらに、診療報酬において25対1医療療養病床が厳しい評価となったことも、介護医療院への転換を促進する要素になると指摘。複数の病棟がある場合に一部を介護医療院に転換するなど、多様な転換方法が想定できるとの考えを示した。

介護医療院に関する一連の評価や運営基準から、厚生労働省の「意気込みを感じる」とし、これまで成功事例がなかった転換政策で「初めてうまくいくかもしれない」と期待感を示した。

●医介連携、検討の成果を「しっかり反映」

地域包括ケアシステムの推進に向けた、医療と介護の連携に関しては「診療報酬との整合性が取れている」と評価。中医協と介護給付費分科会委員の意見交換で指摘された「内容がしっかり反映されている」との認識を示した。具体的には、配置医師緊急時対応加算の新設により、介護老人福祉施設(特養)における配置医師の報酬が確保しやすくなったことや、がん末期の利用者に対するケアマネジメントプロセスが医師の助言を前提に簡素化され、新たな加算も新設されたことなどを挙げた。

リハビリテーションや栄養管理、口腔ケアな

ど「医療の視点」が多く取り入れられたことについては、超高齢社会で高齢者医療と介護が一体化していく流れの一環との見方を示した。同時改定の注目点には、有床診療所の地域包括ケアモデルを挙げた。要件が緩和され運用しやすくなったとし、医療と介護を同じ場で受けられることは「患者にとってもいいこと」と、ショートステイや介護医療院の普及に期待を寄せた。

(平成30年2月27日)

■テーマは「医学と医療の深化と広がり」 — 日本医学会総会2019中部 —

「第30回日本医学会総会2019中部」が来年3月から4月にかけて、名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)などで開かれる。メインテーマは「医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～」。

医学・医療関係者向けの「学術集会」と「学術展示」で3万人、市民向けの「市民展示」と「医学史展」で30万人の来場を目指す。

学術集会は来年4月27日から29日の3日間で、名古屋国際会議場、名古屋学院大白鳥学舎、ウインクあいちで開催される。学術講演は、同総会の基本構想となる4つの柱(▽医学と医療の新展開▽社会とともに生きる医療▽医療人の教育と生き方▽グローバル化する日本の医療—)で構成し、合計26テーマ84セッションが予定されている。

特別プログラムとして、同総会の齋藤英彦会頭(名古屋大名誉教授)、日本医師会の横倉義武会長、日本医学会の門田守人会長らの講演も行われる。

2月28日、東京・本駒込の日医会館で記者会見した齋藤会頭は、同総会のテーマ設定について「健康長寿社会の実現の背景には、技術革新がある。一方で医学・医療は『生老病死』に寄り添ってきた。精神面と技術革新の両方が必要だ」と思い『深化と広がり』という言葉を選んだ」と説明した。

また門田会長は「今回の4つの柱は今の時代に合致し、バランスが取れている。同総会を成

功させることが、私たちにとって重要だ」と強調。横倉会長は「グローバル化は避けては通れない問題。(その中で)『日本の臨床研究がなぜ遅れたのか』など興味深い内容も取り上げられる予定で、そこでの討論が日本の直面する多くの問題の再認識、問題解決の糸口になることを期待している」と話した。

同総会に併せて、来年4月26日から28日にかけて第116回日本内科学会総会・講演会も開かれる。(平成30年3月2日)

■オンライン診療で処方箋発行が可能に — 18年度改定、運用通知 —

3月5日に告示された2018年度診療報酬改定の通知では、新設のオンライン診療料(1月につき70点)について、オンライン診察時に投薬の必要性を認めた場合、処方料または処方箋料を算定できると示された。オンライン診察での処方箋発行を認める内容だ。

オンライン診察料の関連では、オンライン診察をする医師は同診療料の対象となる管理料等を算定する際に診療する医師と同一とするとした。算定する場合は、診療報酬明細書の摘要欄に、対象となる管理料等の名称と算定開始年月を記載することも求めた。

また、オンライン診察をする際の情報通信機器の運用に関する費用は、療養の給付と直接関係ないサービス等の費用として別途徴収できると示した。一方、予約に基づく診察による特別料金の徴収はできないと定めた。

●「包括的な診療担う医療機関と掲示を」

初診料に新設された機能強化加算(80点)の施設基準については、地域で包括的な診療を担う医療機関であることを見やすい場所に掲示することが定められた。

同加算は、地域包括診療加算・診療料、小児

かかりつけ診療料、在宅時医学総合管理料、施設入居時等医学総合管理料の届け出等をしている診療所、200床未満の病院で算定可能。

地域包括診療料1の施設基準で盛り込まれた外来診療から訪問診療への移行実績についての考え方も示した。直近1年間に継続的な外来診療を経て、在宅患者訪問診療料Iの1、同II、往診料を算定した患者の数の合計が10人以上とした。地域包括診療加算1の場合は在宅療養支援診療所(在支診)は10人以上、在支診以外は3人以上とした。加えて、同診療料1、同加算1ともに直近1カ月に初診、再診、往診、訪問診療を実施した患者のうち、往診または訪問診療を実施した患者の割合が70%未満であることも示した。(平成30年3月9日)

■HPKIカード活用など明記へ — オンライン診療で武田医政局長 —

厚生労働省の武田俊彦医政局長は3月22日の参院厚生労働委員会で、年度内にもまとめる予定のオンライン診療を適切に実施するための指針で、成り済まし防止のためのHPKIカード(医師資格証)の活用などをセキュリティ対策として盛り込む考えを説明した。自民党の自見英子氏への答弁。

自見議員はオンライン診療など医療ICTの可能性に期待感を示す一方で、医師の成り済ましや、医師・患者間のオンライン診療での情報漏えいの懸念など、セキュリティ上の課題を指摘。これに対し、武田医政局長は、現在パブリックコメント募集中の同指針案に「成り済まし防止のため、HPKIカードの活用や、個人の画像が医療以外に不適切に使用されないよう、医師・患者間で事前にその扱いについて合意を取ることを盛り込んでいく」と述べた。

(平成30年3月27日)

日医インターネットニュースは、日本医師会のホームページからご覧になれます(毎週火・金更新)。

日本医師会(<http://www.med.or.jp/>)>メンバーズ>日医インターネットニュース

メンバーズルームへのアクセス方法

◆ユーザID：会員ID(日医刊行物送付番号)の10桁の数字(半角)

◆パスワード：生年月日の「西暦の2桁、月2桁、日2桁」の6桁の数字(半角)

医師国保組合だより

～平成30年度の保険料賦課について～

平成30年 3 月 1 日に開催された通常組合会において、当組合の財政運営安定化を図るため、保険料賦課額の規約の一部改正が可決承認されました。4 月以降は、後期高齢者支援金分保険料が2,000円から3,500円に、介護納付金分保険料が3,500円から4,000円になりますことをご報告申し上げます。

月額保険料

	医療給付費分保険料	後期高齢者支援金分 保険料	介護納付金分保険料 (40歳以上65歳未満)
A 会員組合員	35,000円 ※ 1	3,500円	4,000円
B 会員組合員	25,000円 ※ 1	3,500円	4,000円
家 族	3,500円	3,500円	4,000円
高齢組合員 (75歳以上)	3,000円	—	—

※ 1 組合員の医療給付費分保険料については、条件に該当し申請した場合は下表の保険料となります。
条件：前々年分の総収入金額が5,000万円未満、かつ、課税所得金額が2,000万円未満

保険料減額表

区分	課税所得金額	医療給付費分保険料（月額）	
		A 会員組合員	B 会員組合員
1	1,700万円以上2,000万円未満	33,000円	23,000円
2	1,500万円以上1,700万円未満	30,000円	20,000円
3	1,300万円以上1,500万円未満	27,000円	18,000円
4	1,000万円以上1,300万円未満	25,000円	16,000円
5	800万円以上1,000万円未満	23,000円	15,000円
6	600万円以上 800万円未満	20,000円	14,000円
7	400万円以上 600万円未満	17,000円	13,000円
8	200万円以上 400万円未満	15,000円	12,000円
9	100万円以上 200万円未満	13,000円	10,000円
10	50万円以上 100万円未満	10,000円	8,000円
11	50万円未満	5,000円	5,000円

～保健事業に関するお願い～

平成29年度中に当組合の各種保健事業を実施された組合員及び該当するご家族の方で、健康診断個人票や各種申請書をまだ提出されていない方は、5月25日(金)(必着)迄にご提出ください。

提出期日を過ぎますとお支払いができませんのでご注意ください。お早目のご提出をお願い申し上げます。

また、今年度も昨年度と同じく保健事業を実施いたします。5月に「保健事業の案内」を組合員の先生方宛に送付する予定ですが、4月から受診されても結構です。その際には、当組合ウェブサイトから申請書をダウンロードしてご請求くださいますようお願い申し上げます。

◎保健事業一覧

健康診断	歯科健康診査
胃・大腸内視鏡検査の補助	肺炎球菌ワクチン接種補助
低線量ヘリカル CT 肺がん検診	インフルエンザワクチン接種補助
脳ドック等の補助	

～国民健康保険法第116条にかかる届出のお願い～

修学のため親元を離れて住む方は届出が必要です (ただし、住民票を移した場合のみ)

国保法第116条 修学中の被保険者の特例について

修学のため親元を離れ、学校所在地に生活の本拠地を移す例は非常に多くみられます。そのような学生は一般的に所得がなく、保険料負担能力を欠くため、学校所在地域保険者の被保険者とする、学生の比率の高い市町村に対しては財政的に影響を与えることになります。

また、医療費の負担は本来親元の世帯の負担となるべきものであることから、国保の適用について、このような場合は親元に住所があり、親元の世帯に属するものとみなしています。

国保法第116条の規定はこのような修学中の被保険者の特例規定です。

また、この場合、同法施行規則第5条の規定により組合への届出が必要です。

◇手続きについて◇

	事 由	提 出 書 類
1	新たに修学のため親元を離れて住むご家族がいる場合	「第116条該当届」 「在学証明書」
2	これまで、「第116条該当届」を提出している場合、または、毎年「在学証明書」を提出している場合	「在学証明書」
	①届出をした学校に引き続き修学する	「在学証明書」
	②届出をした学校と異なる学校に新たに修学する	「第116条非該当届」 「第116条該当届」(新たな修学先用) 「在学証明書」
	③住民票を組合員の住所に戻した時	「第116条非該当届」
3	④卒業・就職して新しい保険に加入する	「資格喪失届」 「当組合の被保険者証」 「次に加算の保険の加入証明書 または被保険者証の写し」
	上記1, 2以外で、卒業・就職等で新しい保険に加入する (または加入した)	「資格喪失届」 「当組合の被保険者証」 「次に加算の保険の加入証明書 または被保険者証の写し」

＜注 記＞

- 1) 在学証明書は、毎年4月1日以降発行のものを提出ください。
新入学の場合は、入学式終了直後から在学証明書が発行されます。
(※入寮許可証や学生証等は認められません)
- 2) 本届出に関する書類は、3月初旬に該当する組合員宛へ「平成30年度保険料賦課のお知らせ」と一緒に送付しておりますのでご確認ください。

(お知らせ)

届出様式は、宮崎県医師国民健康保険組合ウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.miyazaki.med.or.jp/kokuho/>



平成30年2月6日(火)第11回全理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 後援・共催名義等使用許可について

- ① 3/10(土)(JA-AZM) 認知症講演会の名義後援について

→「若年性認知症ご本人の居場所と就労を考える」をテーマに、昨年9月に台風のため中止になった講演会に代わり企画された会で、名義後援を行うことが承認された。

- ②「看護の日」行事「みやざきナースToday 2018」の名義後援について

→県民に「看護」について考える機会を提供すると共に、看護のイメージアップを図り、人材の確保定着と「看護の心」を伝えることを目的に、県内7地区で開催されるイベントで、名義後援を行うことが承認された。

2. 県医師会次期代議員及び次期予備代議員の選出について

4月30日に任期満了を迎える代議員と予備代議員について、定款及び施行細則等に基づき、平成29年12月1日現在の会員数に応じた代議員等の選出を、各都市医師会に依頼することが承認された。

3. 2/8(木)(宮崎市)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実

施に係る立会について

1 医療機関を対象に行われる個別指導で、嶋本理事を立会人として派遣することが承認された。

4. 平成29年度健康教育事業費補助金交付申請について

各都市医師会及び専門分科医会等が行う健康教育事業を補助することによって、県民の健康増進と地域の取組みに寄与することを目的とする事業で、西都市西児湯医師会、県皮膚科医会、県透析医会に対して補助金を交付することが承認された。

5. 母体保護法指定医師審査基準等の改定について

日本医師会の基準モデル改定に合わせ、研修機関の連携施設等の申請・登録手続きを明確化するもので、本県の基準及び細則を改正することが承認された。

(報告事項)

1. 1月末日現在の会員数について
2. 2/2(金)(県庁)県総合計画審議会について
3. 2/5(月)(県庁)県医療審議会について
4. 2/6(火)(県庁)県社会福祉審議会について
5. 1/31(水)・2/1(木)(宮崎市)社会保険医療担当者の監査の実施に係る立会について
6. 2/1(木)(県医)医療従事者向け認知症対応力向上研修会について
7. 2/4(日)(宮大医学部附属病院)県災害医療コーディネート研修会について
8. 2/5(月)(県庁)県肝炎対策懇話会について
9. 2/2(金)(MRT-micc)地域のちから・介護予防推進事業に関する連絡会議について
10. 2/3(土)・4(日)(佐賀)日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会・講習会について
11. 2/5(月)(県医)介護保険に関する主治医研修会について
12. 2/4(日)(ガーデンテラス宮崎)県小児救急医療電話相談事業運営協議会について
13. 1/31(水)(宮崎労働局)労災診療指導委員会について

14. 2/2(金)(県医)県スポーツドクター連盟総会・健康スポーツ医学セミナーについて
15. 2/3(土)(県医)労災部会自賠責保険研修会について
16. 2/3(土)・4(日)(日医)日医医療情報システム協議会について
17. その他

①医師資格証に対する宮崎県行政の対応について

医師連盟関係 (議決事項)

1. 2/25(日)(宮観ホテル)自民党宮崎県第一選挙区支部総会開催について
当日、創立129周年記念医学会等も開催されることから、河野委員長の出席を見送ることが承認された。
2. 2/28(水)(東京)敬人会夕食勉強会のご案内について
昨年、自由民主党の参議院政策審議会会長に就任した武見敬三参議院議員自らが講師となる勉強会で、協力することが承認された。

平成30年2月13日(火)第29回常任理事協議会

医師会関係 (議決事項)

1. 3/7(水)(日医)都道府県医療事故調査等支援団体等連絡協議会合同協議会の開催について
院内事故調査を支援する際の具体的な手順や「支援団体」の運営実務等を中心に情報共有を図るべく開催される会議で、河野会長の代理として、濱田副会長が出席することが承認された。
2. 3/3(土)(福岡)九医連第369回常任委員会における報告及び協議事項等について
各種協議会等と合わせ開催される常任委員会で、協議事項等の提案については、河野会長に一任することが承認された。

3. 3/25(日)(日医)九州ブロック日医代議員連絡会議の開催について

日医定例代議員会に先立って開催される連絡会議で、日医代議員の河野会長、富田・濱田副会長、立元常任理事が出席することが承認された。

4. 4/28(土)(宮観ホテル)平成30年度宮崎県臨床研修説明会・講演会／新研修医祝賀会～ALL Miyazaki研修医スタートアップセミナー＆ウェルカムパーティ～について

臨床研修の1年次を対象とした説明会に加え、臨床研修1・2年次と関係者を対象とした臨床研修講演会及び新研修医祝賀会を開催することが承認された。

5. 2/25(日)(県総合保健センター)平成29年度NPO法人日本健康運動指導士会九州ブロック事業宮崎県大会の案内について

厚生労働省の椎葉茂樹大臣官房審議会を講師に招き「地域医療と健康づくり」と題して開催される基調講演とシンポジウム等で、会員への案内に協力することが承認された。

6. 3/19(月)(県医)各郡市医師会社保担当理事連絡協議会の開催について

3月5日(月)に日医で開催される都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会を受けて、主に診療報酬改定の説明を行う郡市医師会担当理事向けの連絡協議会を、3月19日(水)に開催することが承認された。

(報告事項)

1. 週間報告について
2. 2/10(土)(宮観ホテル)県内医師会病院連絡協議会について
3. 2/7(水)(県庁)県健康づくり推進協議会について
4. 2/7(水)(第一宮銀ビル)県保険者協議会について
5. 2/9(金)(県庁)県産婦人科医会HTLV-1母子感染対策協議会について
6. 2/10(土)(宮観ホテル)母体保護法指定医師

研修会について

7. 2/13(火)(宮大医学部) 県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会について
8. 2/8(木)(日医) 日医医療IT委員会について
9. 2/13(火)(県医) 治験審査委員会について
10. 2/8(木)(県医) 医療勤務環境改善支援センターアドバイザー研修会について
11. 2/9(金)(県看護協会) 県ナースセンター事業運営協議会について
12. 2/13(火)(宮大医学部) 宮大医学部附属病院専門研修プログラム連絡協議会について
13. 2/7(水)(県医) 宮崎産業保健総合支援センター運営協議会について
14. 2/9(金)(東京) 医療関連サービス振興会シンポジウムについて

医師連盟関係

(議決事項)

1. 2/22(木)(東京) 救急医療に関する議員勉強会の講師派遣について
へき地の救急医療に関する講師の派遣要請があり、先方の意向等も踏まえ、県医師会の金丸吉昌常任理事を派遣することが承認された。

平成30年2月20日(火)第30回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について
①宮崎刑務所視察委員会委員候補者の推薦について
→任期満了に伴う推薦依頼があり、再任の方向で川野理事の意向を確認し、その取扱いについては立元常任理事に一任することが承認された。
2. 5/19(土)(日医) 平成30年度都道府県医師会「警察活動に協力する医師の部会(仮称)」連絡協議会・学術大会の開催について
関係省庁との情報共有や相互連携等を図ることを目的に開催される連絡協議会等

で、県医師会から立元常任理事、県警察医会から和田徹也会長が出席することが承認された。

(報告事項)

1. 2/14(水)(県庁) 県がん対策審議会について
2. 2/16(金)(東京) 横倉義武日医会長 世界医師会長就任祝賀会について
3. 2/18(日)(福岡) 全国有床診療所連絡協議会九州ブロック役員会及び講演会について
4. 2/14(水)(県庁) 県メディカルコントロール協議会について
5. 2/16(金)(県庁) 県感染症発生動向調査委員会について
6. 2/18(日)(日医) 日医母子保健講習会について
7. 2/14(水)(日医) 日医女性医師支援事業連絡協議会について
8. 2/16(金)(県医) 広報委員会について
9. 2/19(月)(県医) 地域医療構想調整会議の進め方に関する協議会について
10. 2/15(木)(ホテルメリージュ) 県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会について
11. 2/19(月)(県医) 県麻しん風しん対策推進会議・広域化検討会議について
12. 2/10(土)・17(土)・18(日)(県医) 人体シミュレータを用いた在宅医療研修会について

平成30年2月27日(火)第31回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 4/7(土)(福岡) 九医連第370回常任委員会の開催について
主に6月2日に開催される九州ブロック日医代議員(含・次期)連絡会議について協議する常任委員会で、河野会長の出席と報告及び協議については河野会長に一任することが承認された。
2. 6/2(土)(福岡) 九州ブロック日医代議員(含・次期)連絡会議における日医各種委員会の報告希望委員会について

役員で報告を希望する委員会があれば河野会長に申し出ることが承認された。

3. 4/26(木)(日医)第8回ワークショップ「会員の倫理・資質向上をめざして-都道府県医師会の取り組みおよびケーススタディから学ぶ医の倫理-」の開催について

「終末期患者の医療について」をテーマに開催されるワークショップで、立元常任理事が出席することが承認された。

4. 平成30年度事業計画(案)について

昨年の事業計画をもとに具体的事項の確認が行われ、一部修正を加えると共に3月13日の法定理事会提出に向け、再度確認作業を進めることが承認された。

5. 平成30年度収支予算(案)について

経常収益計4億2,254万2千円、経常費用計4億1,596万円、当期経常増減額658万2千円で、収支相償及び公益目的事業費率の条件も満たしていることを確認した上で、3月13日に理事会に上程することが承認された。

6. 平成30年度資金運用計画(案)について

資金運用規程に基づき、運用限度額を総額2億2,951万1千円とする運用計画を3月13日の理事会に上程することが承認された。

7. 審査委員の推薦について

現行審査委員の辞任に伴う推薦依頼で、県整形外科医会に後任の人選を依頼することが承認された。

8. 「日本医師会認定産業医制度研修会」の共催のお願いについて

平成30年度、宮崎産業保健総合支援センターが計画している27の研修会について、本会として共催すると共に日本医師会認定産業医制度の研修会として申請することが承認された。

9. 3・4月の行事予定について

3月の追加行事について確認が行われた。

(報告事項)

1. 週間報告について
2. 2/21(水)(ニューウェルシティ)県経済団体協議会及び知事・副知事との意見交換について
3. 2/27(火)(宮大医学部)県がん診療連携協議会について
4. 2/22(木)(日医)日医医療秘書認定試験委員会について
5. 2/24(土)(県医)HTLV-1母子感染対策事業研修会について
6. 2/25(日)(県医)創立129周年記念医学会・県民健康セミナーについて
7. 2/22(木)(日医)日医公衆衛生委員会について
8. 2/27(火)(九州厚生局宮崎事務所)九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について
9. 2/21(水)(県医)情報システム委員会について
10. 2/22(木)(県医)広報委員会について
11. 2/23(金)(県医)認知症サポート医フォローアップ研修会について
12. 2/24(土)(県医)女性医師委員会について
13. 2/24(土)(県医)地域における女性医師支援懇談会～ひなたの会～について
14. 2/22(木)(県庁)県医療費適正化計画策定検討委員会について
15. 2/21(水)(宮大医学部)大規模地震時医療活動訓練に係る調整会議について

医師連盟関係

(議決事項)

1. 3/17(土)(JA-AZM)総務・支部長合同会議の開催について

平成29年度の事業報告・決算、平成30年度の事業計画・予算に加え県連創立60周年記念大会等を協議する合同会議で、河野委員長が出席する方向で調整することが承認された。

(報告事項)

1. 2/24(土)(東京)日医連医政活動研究会について

県 医 の 動 き

(3月)

1	(日医)日医予防接種・感染症危機管理対策委員会 (峰松理事) 県内科医会評議員会 医師国保組合通常組合会 県産婦人科医会産後健診に関する協議(濱田副会長他)	16	県防災会議(小牧常任理事) (東京)地域医療介護総合確保基金(医療分)ヒアリング(富田副会長) (西諸医師会館)西諸医師会臨時総会
2	勤務医部会理事会(富田副会長他) 勤務医部会後期講演会(富田副会長他)	17	県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会 (金丸常任理事) 県認知症高齢者グループホーム連絡協議会総会・研修会(金丸常任理事) 自民党宮崎県支部長会(河野委員長) 県産婦人科医会 養護教諭と医師のための性教育研修会(濱田副会長) 各郡市内科医会会長(小牧常任理事)
3	(福岡)九医連医療情報システム担当理事連絡協議会 県産婦人科医会ひむかセミナー (福岡)九医連各種協議会合同 次期診療報酬改定・介護報酬改定に関する講演 (福岡)九医連常任委員会(会長) (福岡)九医連次期診療報酬改定・介護報酬改定に関する各県質問事項協議	18	九州外来小児科学研究会(高村常任理事他)
4	(福岡)九医連第2回各種協議会 県産婦人科医会ひむかセミナー (福岡)レジナビフェアin福岡(金丸常任理事) (福岡)九医連各種協議会報告会	19	県地域医療対策協議会・県地域医療支援機構代表者会議・宮大医学部地域医療・総合診療医学講座運営・支援協議会(会長) 総合確保基金知事要望(会長) 各郡市医師会社会保険担当理事連絡協議会
5	(日医)都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会 (立元常任理事他) 医療安全対策セミナー(TV会議)(富田理事長)	20	宮大経営協議会(会長) 医協打合せ会(立元副理事長) 治験理事会(富田副会長他) 第33回常任理事協議会(会長他)
6	治験審査委員会(富田副会長他) 第32回常任理事協議会(会長他) 母体保護法指定医師審査委員会(濱田副会長他)	21	(都城)医師クラーク育成・スキルアップ研修会
7	(日医)都道府県医療事故調査等支援団体等連絡協議会合同協議会(濱田副会長) (日医)都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会(TV会議)(立元常任理事) 医学会誌編集委員会(濱田副会長他)	22	県高次脳機能障がい支援連絡会議(帖佐理事) 宮大医学部医の倫理委員会(糸数理事) 医家芸術展世話人会(濱田副会長他) 都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会復講(TV会議)(立元常任理事他) 県地域医療構想調整会議(富田副会長他)
8	みやざき子育てサポート連絡会議(高村常任理事) 県産婦人科医会全理事会(濱田副会長他)	23	(東京)都道府県在宅医療・介護連携担当者会議 (石川常任理事) 県移植推進財団理事会(濱田副会長) 広報委員会(荒木常任理事他) 羽生田国会議員との面談(会長)
9	(日医)都道府県医師会有床診療所担当理事連絡協議会(TV会議)(川野理事) 県准看護師試験委員会(立元常任理事他) (日医)日医学術推進会議(会長) (福岡)全国国保組合協会九州支部総会(秦理事長) 県地域・職域連携推進協議会(池井常任理事) 医療機関経営セミナー(TV会議)(富田理事長他) 県小児科医会打合せ会(高村常任理事)	24	ICLS指導者養成ワークショップ (日南)医師クラーク育成・スキルアップ研修会 (日向市東臼杵郡医師会館)日向市東臼杵郡医師会臨時総会 (東京)全国医師会医療秘書学院連絡協議会常任委員会(富田副会長) (東京)全国医師会医療秘書学院連絡協議会運営委員会(富田副会長) 病院部会・医療法人部会医療従事者研修会
10	臨床検査精度管理勉強会 県産婦人科医会産後健診(EPDS)研修会(濱田副会長他) (福岡)九州医師協同組合連合会購買・保険部会 (富田理事長) 県内科医会総会	25	ACLS研修会 (日医)九州ブロック日医代議員連絡会議(会長他) (日医)日医臨時代議員会(会長他) (延岡)医師クラーク育成・スキルアップ研修会 (都城)医師国保組合歩こう会
11	(福岡)九州医師協同組合連合会購買・保険部会 (富田理事長) (日医)日医学校保健講習会(高村常任理事)	26	県外科医会理事会 県産婦人科医会医療保険委員会(濱田副会長他)
12	県産業保健連絡協議会・県産業医研修連絡協議会 (三者協議会)(濱田副会長他) 地域医療資源データのwebサイト説明会(TV会議)	27	九州地方社会保険医療協議会宮崎部会(小牧常任理事) 医協理事会(富田理事長他) 第34回常任理事協議会(会長他)
13	宮大医学部附属病院医師研修管理委員会(会長) 第2回理事会(会長他) 第12回全理事協議会(会長他)	28	(都城市北諸県郡医師会館)都城市北諸県郡医師会臨時社員総会 県健康づくり協会理事会(富田副会長) 労災診療指導委員会(川野理事他)
14	社会保険医療担当者の監査(立元常任理事) (日医)都道府県医師会産業保健担当理事連絡協議会 (佐々木常任理事) 支払基金幹事会(会長) (日医)日医医療秘書認定試験委員会(富田副会長) 県医療勤務環境改善支援センター運営協議会 (池井常任理事)	29	社会保険医療担当者の個別指導(峰松理事) 女性医師事業打合せ(荒木常任理事) (延岡市医師会館)延岡市医師会総会
15	県蚊媒感染症対策会議(峰松理事) 県アイバンク協会理事会(会長) 広報委員会(富田副会長他) 地域医療資源データのwebサイト説明会(TV会議)	30	県医師連盟常任執行委員会(河野委員長他) 各郡市医師会(連盟)役員連絡協議会(会長他)
		31	総合確保基金松下参議院議員への要望(会長)

医師資格証を持ちましょう

「医師資格証」はHPKI（保健医療福祉分野公開鍵基盤）の枠組みを使った日本医師会認証局が発行する医師資格を証明するカードです

医師資格証は
5年ごとの
更新になりました

申請方法と
受け取り方法が
変更になりました

年間利用料が
廃止されました

2年ごとの
オンライン更新が
不要になりました

診療情報提供書等への HPKI電子署名に対応しています

医師資格証 ご利用シーン



地域医療連携内での
診療情報提供書への
HPKI電子署名
(平成28年診療報酬改定におい
て加算を算定することが可能)

電子処方せん発行時の
HPKI電子署名に使用



日医生涯教育制度、認定
医、かかりつけ医など各
種研修時の受講履歴、
取得単位管理に使用

地域医療連携システムへ
の**ログイン認証**



医師資格証ポータル
サイトの利用



治験データへの
HPKI電子署名



文書交換サービス
の利用



身分証としての活用
JAL DOCTOR登録制度
などへの任意登録に使用
する
※医師資格証を身分証として活用で
きるように各企業、行政機関に働き
かけを行なっています



日本医師会 電子認証センター
Japan Medical Association Certificate Authority

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス17階

詳しくは日本医師会電子認証センターホームページをご覧ください。 <http://www.jmaca.med.or.jp/>



ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

平成30年 3 月12日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。

お申し込み、お問い合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらしを紹介しておりますのでご覧ください。

1. 求職者登録数 6人

1) 男性医師求職登録数 5人 (人)

希望診療科目	求職数	常 勤	非常勤
内 科	3	1	2
胃腸科・放射線科	1	0	1
老 健	1	1	0

2) 女性医師求職登録数 1人 (人)

希望診療科目	求職数	常 勤	非常勤
消 化 器 内 科	1	0	1

2. 斡旋成立件数 62人 (人)

	男 性 医 師	女 性 医 師	合 計
平 成 2 9 年 度	6	1	7
平成16年度から累計	46	16	62

3. 求人登録 90件 341人 (人)

募集診療科目	求人数	常 勤	非常勤	募集診療科目	求人数	常 勤	非常勤
内 科	99	76	23	消 化 器 外 科	4	2	2
外 科	30	24	6	乳 腺 外 科	3	3	0
整 形 外 科	26	22	4	健 診	8	5	3
精 神 科	16	14	2	泌 尿 器 科	2	1	1
脳 神 経 外 科	12	8	4	産 婦 人 科	1	1	0
循 環 器 科	10	7	3	検 診	3	1	2
消 化 器 内 科	15	12	3	皮 膚 科	5	2	3
麻 酔 科	13	10	3	婦 人 科	2	2	0
眼 科	7	4	3	呼 吸 器 外 科	4	3	1
放 射 線 科	11	10	1	人 工 透 析	7	5	2
小 児 科	4	2	2	リ ウ マ チ 科	1	1	0
呼 吸 器 科	3	3	0	臨 床 病 理 科	1	1	0
在 宅 診 療	2	2	0	形 成 外 科	2	1	1
総 合 診 療 科・内 科	3	3	0	診 療 科 目 不 問	3	3	0
神 経 内 科	8	6	2	緩 和 ケ ア	1	1	0
呼 吸 器 内 科	10	9	1	内 分 泌 糖 尿 病 内 科	1	1	0
リハビリテーション科	4	4	0	そ の 他	11	8	3
救 命 救 急 科	9	9	0	合 計	341	266	75

求 人 登 録 者(公開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施 設 名	所 在 地	募集診療科	求人数	勤務形態
160011	赤十字センター	宮 崎 市	検診	3	常勤・非常勤
160013	医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮 崎 市	脳外,整,放,麻,内	9	常勤・非常勤
160017	医)プレストピア プレストピア宮崎病院	宮 崎 市	乳外,放,麻	3	常勤
160020	財)弘潤会 野崎病院	宮 崎 市	精,内	2	常勤
160031	社医)同心会 古賀総合病院	宮 崎 市	呼内,神内,総診,呼外,病理, 乳外,整,麻,代内	9	常勤
160033	医)如月会 若草病院	宮 崎 市	精	1	常勤
170046	医)社団善仁会 市民の森病院	宮 崎 市	消内,内分泌糖内,呼内,リウ, 神内,健診	9	常勤・非常勤
170048	医)慶明会 けいめい記念病院	国 富 町	内,放	2	常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮 崎 市	内,神内,整,消内,腫内	5	常勤
190087	宮崎市郡医師会病院	宮 崎 市	消内,呼内,総診	6	常勤
190094	医)耕和会 迫田病院	宮 崎 市	内,外	2	常勤
190095	医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮 崎 市	眼	1	常勤
200104	医)社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮 崎 市	内,外,救急,呼外,婦人,整,麻	12	常勤
200105	医)誠友会 南部病院	宮 崎 市	外,内,放	3	常勤
210110	医)幸秀会 大江整形外科病院	宮 崎 市	整	1	常勤
210128	医)真愛会 高宮病院	宮 崎 市	精	2	常勤
230132	医)康友会 青島クリニック	宮 崎 市	内	1	常勤
230134	医)慈光会 宮崎若久病院	宮 崎 市	精	2	常勤
230139	介護老人保健施設 サンフローラみやざき	国 富 町	内,外	2	常勤
230143	医)社団孝尋会 上田脳神経外科	宮 崎 市	脳外,内	2	常勤
230144	宮崎生協病院	宮 崎 市	呼内,消内,健診,麻	7	常勤・非常勤
230146	財)潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	宮 崎 市	内,外,整,脳外,リハ,麻,救急, 緩和	13	常勤
230148	医)コムロ美容外科	宮 崎 市	美外,形成外,外,麻	8	常勤・非常勤
230161	医)健心会 滝口内科医院	宮 崎 市	内,皮	2	非常勤
230164	宮崎県保健所	宮 崎 市	公衆衛生	3	常勤
230175	社会福祉法人 キャンパスの会	宮 崎 市	内,小,整(いずれか)	1	常勤
230177	医)社団尚成会 近間病院	宮 崎 市	内,消内,消外,放(いずれか)	1	常勤
230178	介護老人保健施設 むつみ苑	宮 崎 市	内	1	常勤
230180	一社)藤元メディカルシステム 藤元中央病院	宮 崎 市	内,糖内,呼内,血内	4	常勤
230184	グリーンケア学園木花台	宮 崎 市	内	1	非常勤
230185	医)朋詠会 獅子目整形外科病院	宮 崎 市	整,内	2	常勤
160010	特医)敬和会 戸嶋病院	都 城 市	内,消内,整,神内	7	常勤・非常勤
160018	医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都 城 市	内,放,脳外,外,眼,透,皮,腎内	22	常勤・非常勤
170057	医)清陵会 隅病院	都 城 市	内,外,整	3	常勤
180064	国立病院機構都城医療センター	都 城 市	呼内,総診,消内,腫内	4	常勤
180081	恵心会 永田病院	都 城 市	精	2	常勤・非常勤
190092	都城市郡医師会病院	都 城 市	内,呼内,消内	5	常勤
210114	藤元病院	都 城 市	精,内	3	常勤
230127	医)倫生会 三州病院	都 城 市	消内,消外,乳外	5	常勤・非常勤
230137	医)宏仁会 海老原内科	都 城 市	内	1	常勤
230142	医)魁成会 宮永病院	都 城 市	内,リハ	2	常勤
230153	都城健康サービスセンター	都 城 市	内	1	非常勤

登録番号	施 設 名	所 在 地	募集診療科	求人数	勤務形態
230162	藤元総合病院	都 城 市	内,透,循内,救急,放,呼内	12	常勤
230172	医)静雄会 藤元上町病院	都 城 市	内	2	常勤
230179	医)与州会 柳田病院	都 城 市	外	1	常勤
230181	介護老人保健施設 はまゆう	三 股 町	内	1	常勤
230183	医)恵心会 坂元医院	都 城 市	消内,老人内,内	5	常勤・非常勤
160012	医)伸和会 共立病院	延 岡 市	外,整,放,内	6	常勤
160021	医)建悠会 吉田病院	延 岡 市	精	3	常勤・非常勤
160034	特医)健寿会 黒木病院	延 岡 市	消外,消内	4	常勤・非常勤
190086	早田病院	延 岡 市	消内,循内	2	常勤
200100	医)育生会 井上病院	延 岡 市	産婦,内,小	3	常勤・非常勤
200102	延岡市医師会病院	延 岡 市	消内,消外,内	3	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延 岡 市	内,小	2	非常勤
230156	医)中心会 野村病院	延 岡 市	内,外	2	常勤
230163	堺胃腸科内科クリニック	延 岡 市	内,胃内,消内,呼内,循内 (いずれか)	1	非常勤
230186	医)隆誠会 延岡保養園	延 岡 市	精	1	常勤
230189	特医)健腎会 おがわクリニック	延 岡 市	泌,透	4	常勤・非常勤
160039	医)誠和会 和田病院	日 向 市	外,整	4	常勤
210111	宮崎県済生会 日向病院	門 川 町	内,麻	3	常勤
230147	美郷町国民健康保険西郷病院	美 郷 町	内,整	2	常勤
230152	美郷町国民健康保険南郷診療所	美 郷 町	内,整	2	常勤
230160	日向市立東郷病院	日 向 市	内,整	2	常勤
230190	稲原眼科医院	日 向 市	眼	1	非常勤
160006	都農町国保病院	都 農 町	内,放,外,健診	5	常勤・非常勤
160023	医)宏仁会 海老原総合病院	高 鍋 町	内,腎内,麻,総診,外,整,脳外, 眼,健診	13	常勤・非常勤
230170	介護老人保健施設 なでしこ園	高 鍋 町	内	1	常勤
230187	国立病院機構宮崎病院	川 南 町	呼内,循内,糖内,神内,小,整	12	常勤・非常勤
160024	医)隆徳会 鶴田病院	西 都 市	内	1	常勤
150002	医)慶明会 おび中央病院	日 南 市	内	4	常勤・非常勤
150003	医)同仁会 谷口病院	日 南 市	内	1	非常勤
160022	医)愛鍼会 山元病院	日 南 市	内	1	常勤
160037	医)十善会 県南病院	串 間 市	精,内	2	常勤
170047	日南市立中部病院	日 南 市	内,外,整,在宅	4	常勤
180071	串間市民病院	串 間 市	内,外,総診,消内,腎内	5	常勤
230149	介護老人保健施設 おびの里	日 南 市	内	1	常勤
230166	医)秀英会 介護老人保健施設 長寿の里	串 間 市	内	1	常勤
230168	医)月陽会 きよひで内科クリニック	日 南 市	内	7	常勤・非常勤
230188	医)春光会 日南春光会病院	日 南 市	外,内	4	常勤・非常勤
160019	医)相愛会 桑原記念病院	小 林 市	内,皮	4	常勤・非常勤
170043	医)和芳会 小林中央眼科	小 林 市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小 林 市	救急,総診,放	5	常勤
180076	医)けんゆう会 園田病院	小 林 市	外,循内,整,脳外	9	常勤・非常勤
190090	特医)浩然会 内村病院	小 林 市	精	1	常勤
190091	医)友愛会 野尻中央病院	小 林 市	整,内,脳外	6	常勤・非常勤
230167	介護老人保健施設 さわやかセンター	小 林 市	内	1	非常勤
230169	医)連理会 和田クリニック	小 林 市	内	2	常勤
170049	五ヶ瀬町国民健康保険病院	五ヶ瀬町	内,外	2	常勤
180070	高千穂町国保病院	高千穂町	内,透	3	常勤
190088	日之影町国保病院	日之影町	内,外(いずれか)	1	常勤

病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成30年3月12日現在

1. 譲渡物件	① 宮崎市阿波岐ヶ原町前田2633番, 2634番 土地のみ：2,022.17㎡(612.77坪)	所有者：児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
	② 西都市中央町2丁目6番地 土地：2,280.83㎡(691.16坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 674.74㎡ } 2階 547.79㎡ } 1,400.48㎡(424.38坪) 3階 177.95㎡ } ※別途駐車場あり(20台)	所有者：西都市西児湯医師会員 図師医院跡
2. 譲渡又は 賃貸物件	① 小林市南西方49番地1 土地：1,991.34㎡(603.43坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根2階建 1階 471.41㎡ } 2階 638.35㎡ } 1,109.76㎡(336.29坪) ※駐車場あり(30台)	所有者：(医) 社団 産婦人科 生駒クリニック
	② 児湯郡川南町大字平田1402-74 土地：4,449㎡(1,348.18坪) 建物：鉄骨セメント造平屋建 1階 825.66㎡(250.20坪) ※駐車場あり(70台)	所有者：児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
3. 賃貸物件	① 延岡市無鹿町1丁目710 土地：1,654.58㎡(501.38坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根4階建 1階 145.76㎡ } 2階 338.70㎡ } 829.40㎡(251.33坪) 3階 330.69㎡ } 4階 14.25㎡ } ※駐車場あり(50台)	所有者：(医) 社団 隆豊会 江崎医院跡
	② 西臼杵郡高千穂町大字上野264番地 土地：875㎡(265.15坪) 建物：木造瓦葺平家建 1階 114㎡(34.54坪) ※駐車場あり(20台)	所有者：西臼杵郡医師会員 後藤医院跡

ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し，求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は，月～金の9時～12時及び13時～17時です。
3. 申込み方法は，所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は，「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先

ドクターバンク無料職業紹介所

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地(宮崎県医師協同組合)
TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179
E-mail: isikyoku@miyazaki.med.or.jp

日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

宮崎県医師会広報委員会

E-Mail : genko@miyazaki.med.or.jp

FAX : 0985-27-6550

TEL : 0985-22-5118

日州医事では、読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や、読みたい記事のご提案など、忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお、いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

注：FAXの際は、このページを切り取り、
裏面の原稿用紙もご利用になれます。

宮崎県医師会広報委員会 行 FAX : 0985-27-6550

Blank lined area for writing.

きりとりせん

お名前 :

ご所属 :

TEL : FAX :

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成30年 3 月27日

4			月		
1	日		17	火	18：20 医協打合せ会 19：00 第3回常任理事協議会
2	月		18	水	
3	火	18：00 治験審査委員会 19：00 第1回常任理事協議会	19	木	18：30 児湯医師会臨時総会 19：00 勤務医委員会
4	水	13：00 (日医)日医CBRNE(テロ災害)研修会 13：00 (日医)日医CBRNE(テロ災害)研修会(日医TV会議) 19：00 県プライマリ・ケア研究会学術広報委員会 9：00 県脳卒中医療協議会	20	金	19：00 県内科医会会計監査
5	木		21	土	15：00 県産婦人科医会春期総会 16：00 (佐賀)佐賀県医師会新会館内覧会・落成記念祝賀会
6	金		22	日	
7	土	18：00 (福岡)九医連常任委員会	23	月	19：00 医師国保組合理事会 19：00 県臨床研修・専門研修運営協議会 19：00 西都市西児湯医師会臨時総会 19：00 広報委員会 19：00 県外科医会理事・評議員会
8	日		24	火	18：15 医協理事会 19：00 第1回全理事協議会 終了後 医協理事・運営委員合同協議会
9	月		25	水	15：00 労災診療指導委員会
10	火	19：00 第2回常任理事協議会	26	木	13：30 (日医)日医ワークショップ「会員の倫理・資質向上をめざして」 14：00 宮大医学部医の倫理委員会 19：00 在宅医療研修会企画小委員会 19：30 延岡市医師会臨時総会
11	水	16：00 支払基金幹事会	27	金	18：00 県認知症疾患医療センター合同会議
12	木	19：30 県産婦人科医会全理事会	28	土	15：40 宮崎県臨床研修医説明会/新研修医祝賀会
13	金	14：00 (日医)日医勤務医委員会 14：30 宮大学長選考会議	29	日	(昭和の日)
14	土	10：00 総合確保基金長峯参議院議員への要望 15：00 県産婦人科医会子宮頸がん併用検診研修会	30	月	(振替休日)
15	日				
16	月	19：00 広報委員会			

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからご覧になれます。

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成30年3月27日

5			月		
1	火	18:00 治験審査委員会 19:00 第4回常任理事協議会	17	木	19:30 県産婦人科医会常任理事会
2	水		18	金	18:30 医協会計監査
3	木	(憲法記念日)	19	土	14:00 (日医)都道府県医師会「警察活動に協力する医師の部会(仮称)」連絡協議会・学術大会 14:30 産業医研修会
4	金	(みどりの日)	20	日	10:00 日医かかりつけ医機能研修制度応用研修会
5	土	(こどもの日)	21	月	19:00 広報委員会
6	日	(振替休日)	22	火	18:30 第1回理事会 終了後 第2回全理事協議会 19:00 県医臨時代議員会
7	月		23	水	13:00 (東京)全国医師国保組合連合会代表者会
8	火	18:40 医協理事会 19:00 第5回常任理事協議会	24	木	宮大学長選考会議
9	水	16:00 支払基金幹事会	25	金	18:00 九州連合産科婦人科学会・九州ブロック産婦人科医会 19:00 認知症サポート医フォローアップ研修会(TV会議)
10	木		26	土	7:00 九州連合産科婦人科学会・九州ブロック産婦人科医会 13:00 男女共同参画フォーラム
11	金		27	日	8:30 九州連合産科婦人科学会・九州ブロック産婦人科医会
12	土		28	月	18:30 県医監事監査
13	日	13:30 県小児科医会総会・春季学術講演会	29	火	19:00 第7回常任理事協議会
14	月	19:00 広報委員会	30	水	15:00 労災診療指導委員会
15	火	19:00 第6回常任理事協議会	31	木	15:00 (日医)日医医療IT委員会 15:00 (日医)日医医療秘書認定試験委員会
16	水	13:30 (日医)都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会			

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからご覧になれます。

医 学 会 ・ 講 演 会

日本医師会生涯教育講座認定学会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード(当日，参加証を交付)

がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会(胃・大腸・肺・乳)

アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
延岡医師漢方研究会講演会 4月5日(木) 19:00～20:30 エンシティホテル 延岡	高齢者医療における漢方治療 ー認知症の周辺症状を中心にー けいめい記念病院脳神経外科 副院長 岡原 一徳	21 (0.5) 29 (0.5) 83 (0.5)	◇主催 延岡医師漢方研究会 ◇共催 (株)ツムラ 延岡市西臼杵郡薬剤師会 ◇後援 ※延岡市医師会 ☎0982-21-1300
Takeda Medical Seminar in MIYAZAKI 4月9日(月) 19:00～21:00 MRT-micc	当院における吐下血患者の現状 宮崎善仁会病院 院長 関屋 亮 同時改定をどう乗りきるか？ 博愛記念病院 理事長 武久 洋三	50 (1.0) 6 (1.0)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ※武田薬品工業(株) ☎0985-24-6763
南那珂医師会生涯 教育医学会 4月11日(水) 19:00～20:00 南那珂医師会館	2型糖尿病治療の最近の考え方 ーSGLT阻害薬の最近の話題を含めてー 日南市立中部病院 副院長 中津留 邦展	76 (1.0)	◇主催 ※南那珂医師会 ☎0987-23-3411 ◇共催 アストラゼネカ(株) 小野薬品工業(株)

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
第2回在宅医療推進のための連携・スキルアップ研修会 4月12日(木) 19:00～20:30 県医師会館	現場実践に求められる「倫理的推論ethical reasoning」のスキルー「最善の医療」を提供するために必要な臨床倫理の最新情報ー 宮崎大学医学部社会医学講座生命・医療倫理学分野 教授 板井 孝壱郎	2 (1.0)	◇主催 宮崎市郡在宅医会 (連絡先) 宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119
高齢者医療を考える会 4月12日(木) 19:15～21:15 宮崎観光ホテル	認知症高齢者の診療の基本 けいめい記念病院 副院長 岡原 一徳 ----- 糖尿病とサルコペニアについて 光川内科医院 院長 光川 知宏	47 (0.5) 48 (0.5) ----- 21 (0.5) 22 (0.5)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ※武田薬品工業(株) ☎0985-24-6763
第2回宮崎外傷研究会 4月13日(金) 18:40～20:40 宮崎大学医学部附属病院 参加費:500円	Acute Care Surgeryの日米の違いー米国外科・外科集中治療専門医の立場からー 帝京大学医学部救急医学講座 講師 伊藤 香 ----- 都市型高度救命救急センターに求められる役割と急性期外科医 帝京大学医学部救急医学講座 教授 三宅 康史	9 (0.5) ----- 10 (0.5)	◇主催 宮崎外傷研究会 ◇共催 アステラス製薬(株) ※科研製薬(株) ☎0985-51-7504
延岡医学会学術講演会 4月13日(金) 19:00～20:10 エンシティホテル 延岡	効果のメカニズムを念頭に置いた睡眠障害への薬物療法 久留米大学医学部神経精神医学講座 講師 小鳥居 望	20 (1.0)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 MSD(株) ◇後援 延岡内科医会 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
平成30年度宮崎県 産婦人科医会子宮 頸がん併用検診研 修会 4月14日(土) 15:00～16:30 県医師会館	本県の現状について(仮) 宮崎県福祉保健部健康増進課 課長 矢野 好輝	0 (0.5)	◇主催 ※宮崎県産婦人科医会 ☎0985-22-5118
	LBC / HPV検査併用検診のすすめ 新百合ヶ丘総合病院がんセンター センター長 日本産婦人科医会 常務理事 自治医科大学 名誉教授 鈴木 光明	0 (0.5) 11 (0.5)	
第178回 宮崎県眼 科医会講習会 4月14日(土) 16:20～19:00 宮崎観光ホテル 参加費:3,000円	OCTを活用した前視野緑内障の診断および治療戦略 おおくぼ眼科クリニック 院長 大久保 真司	36 (1.0)	◇主催 ※宮崎県眼科医会 ☎0985-28-1015 ◇共催 参天製薬(株)
	眼形成からみた外来手術のコツについて 愛知医科大学眼形成・眼窩・涙道外科 診療部長・教授(特任) 柿崎 裕彦	36 (1.0)	
(社)宮崎県精神科 診療所協会学術講 演会 4月14日(土) 18:50～20:00 MRT-micc	双極性障害治療の課題と新たな治療選択への期待 クリニック足立 副院長 桑原 秀樹	70 (1.0)	◇主催 ※(社)宮崎県精神科診療所協会 ☎0985-35-1100 ◇共催 大塚製薬(株)
第125回 宮崎市郡 医師会病院心臓病 研究会 4月16日(月) 18:50～20:20 宮崎観光ホテル	社会保障としての循環器疾患治療 ー医療経済とPCTの近未来ー 済生会熊本病院 院長 中尾 浩一	6 (1.0)	◇主催 宮崎市郡医師会病院心臓病研究会 ◇共催 日本ベーリンガーインゲルハイム(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
延岡心臓病カンファレンス 4月17日(火) 19:00～21:00 県立延岡病院	ASスクリーニングにおける聴診の重要性 宮崎県立延岡病院循環器内科 医長 黒木 一公	42 (0.5)	◇主催 延岡心臓病カンファレンス ◇共催 フクダ電子(株) グッドウィル(株) ◇後援 延岡市医師会 (連絡先) 宮崎県立延岡病院 ☎0982-32-6181
	新しい治療「DCA（方向性冠動脈粥腫切除術）について」 宮崎県立延岡病院循環器内科 医長 日下 裕章	6 (0.5)	
	新しい治療「エキシマレーザーによる治療について」 宮崎県立延岡病院循環器内科 部長 山本 展誉	6 (0.5)	
	職業運転手の失神について 宮崎県立延岡病院循環器内科 副医長 小牧 聡一	33 (0.5)	
佐土原地区医師会学術講演会 4月18日(水) 19:00～20:10 シーガイアコンベンションセンター	高中性脂肪血症／高レムナント血症の治療 ーなぜ、どうやって治療するかー(仮) 高田中央病院糖尿病内科 部長 奥羽大学薬学部疾患薬理学 非常勤講師(教授) 齊藤 美恵子	75 (1.0)	◇主催 佐土原地区医師会 ◇共催 ※MSD(株) ☎0985-28-9496 バイエル薬品(株)
第63回宮崎県耳鼻咽喉科懇話会臨床セミナー 4月19日(木) 18:50～20:50 MRT-micc 参加費：1,000円	鼻副鼻腔疾患に対する最近の治療法 ーアレルギー性鼻炎を中心にー 名古屋市立大学病院耳鼻咽喉科 診療教授 鈴木 元彦	56 (0.5)	◇主催 宮崎県耳鼻咽喉科懇話会 ◇共催 ※田辺三菱製薬(株) ☎0985-32-9205 ◇後援 日本耳鼻咽喉科学会宮崎地方部会
	嚥下障害への対応 東北大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 教授 香取 幸夫	47 (0.5) 49 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
平成30年度延岡内科医会総会・学術講演会 4月20日(金) 19:00～20:40 エンシティホテル 延岡	延岡市における救急の現状とその対応 共立病院 院長 赤須 郁太郎	50 (0.5)	◇主催 延岡内科医会 ◇共催 武田薬品工業(株) 大塚製薬(株) ◇後援 延岡医学会 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
	抗血栓治療の現状から考える消化管出血対策 ーカテーテル治療医の立場からー 東海大学医学部内科学系循環器内科学 准教授 篠崎 法彦	11 (0.5) 52 (0.5)	
平成30年度宮崎県産婦人科医会・宮崎県産科婦人科学会春期定時総会・学術講演会 4月21日(土) 15:30～19:00 県医師会館	常位胎盤早期剥離の管理 ー胎児新生児予後の視点からー 宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座 産婦人科学分野 准教授 古川 誠志	7 (0.5) 71 (0.5)	◇主催 宮崎県産婦人科医会 ※☎0985-22-5118 ◇共催 宮崎県産科婦人科学会
第38回宮崎県臨床整形外科医会学術講演会 4月21日(土) 17:00～19:00 ホテルJALシティ 宮崎	骨粗鬆症薬剤の新薬ラッシュと当科の選択基準について 小牧病院 院長 小牧 亘	77 (0.5)	◇主催 宮崎県臨床整形外科医会 ◇共催 第一三共(株) (連絡先) ひらかわ整形外科クリニック ☎0985-28-8220
	発育性股関節形成不全の診断治療と最近の話題 宮崎県こども療育センター 所長 川野 彰裕	72 (1.0)	
延岡医学会学術講演会 4月27日(金) 19:00～20:10 エンシティホテル 延岡	肺高血圧症の診断と治療 宮崎大学医学部内科学講座循環体液制御学分野 助教 鬼塚 久充	43 (0.5) 45 (0.5)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 アクトリオン ファーマシューティカルズジャパン(株) ◇後援 延岡内科医会 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
日向市東臼杵郡医師会学術講演会 4月27日(金) 19:00～20:10 ホテルベルフォー ト日向	宮崎県における肝炎診療の現状と今後の課題 宮崎大学医学部附属病院肝疾患センター 准教授 永田 賢治	8 (0.5) 73 (0.5)	◇主催 ※日向市東臼杵郡医師会 ☎0982-52-0222 ◇共催 日向市東臼杵郡内科医会 日向市東臼杵郡薬剤師会 アッヴィ合同会社
宮崎県医師会産業 医研修会 5月11日(金) 19:00～21:00 県医師会館	職場における糖尿病対策 産業保健相談員 日南市立中部病院 副院長 中津留 邦展 生涯研修の専門研修会：2単位	5 (0.5) 11 (0.5) 76 (0.5) 82 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
宮崎県医師会産業 医研修会 5月17日(木) 19:00～21:00 県医師会館	企業における受動喫煙防止対策 産業保健相談員 宮崎県立看護大学看護学部 教授 江藤 敏治 生涯研修の専門研修会：2単位	9 (0.5) 11 (0.5) 12 (0.5) 82 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
延岡医学会・第54 回宮崎県北地区整 形外科医会学術講 演会 5月18日(金) 19:00～21:10 エンシテイホテル 延岡	当院における変形性関節症のデュロキセチン使用経験 獅子目整形外科病院 院長 獅子目 亨 ―― 関節リウマチに対する外科治療 宮崎大学医学部感覚運動医学講座整形外科学分野 講師 濱田 浩朗	62 (0.5) 73 (0.5) 19 (0.5) 61 (0.5)	◇主催 宮崎県北地区整形外科医会 ◇共催 延岡医学会 塩野義製薬(株) (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
宮崎在宅医学会学術 講演会－在宅医療 の実践－ 5月19日(土) 14:30～16:10 シーガイアコンベン ションセンター	認知症における早期診断と早期治療の重要性 －地域での多職種連携を踏まえて－ 久留米大学医学部神経精神医学講座 准教授 小路 純史	80 (0.5)	◇主催 宮崎市郡在宅医会 ◇共催 ※武田薬品工業(株) ☎0985-24-6763
	在宅点数丸わかり－レセプト道場in宮崎－ さくらのクリニック 院長 鷺坂 英輝	13 (1.0)	
第26回ひむか骨関 節・脊椎脊髄疾患 セミナー 5月19日(土) 15:15～18:30 シーガイアコンベン ションセンター 参加費:1,000円	周術期から外来診療まで役立つ静脈血栓塞栓症の予防 と医療安全対策 北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科 教授 高平 尚伸	7 (0.5) 63 (0.5)	◇主催 ひむか骨関節・脊椎脊髄疾患セミナー ◇共催 ※第一三共(株) ☎0985-23-5710
	高齢者の要介護原因疾患の疫学:ロコモとフレイルと 認知症 東京大学医学部附属病院22世紀医療センター ロコモ予防学講座 教授 吉村 典子	13 (0.5) 62 (0.5)	
	運動器慢性痛の病態と治療－集学的治療を含めて－ 福島県立医科大学医学部整形外科学講座 教授 矢吹 省司	59 (0.5) 60 (0.5)	
宮崎県医師会産業 医研修会 5月30日(水) 14:00～16:00 県医師会館	職場のメンタルヘルスの重要性 産業保健相談員 宮崎大学医学部 名誉教授 鶴 紀子 生涯研修の専門研修会:2単位	1 (0.5) 11 (0.5) 69 (0.5) 70 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
延岡医学会学術講演会 6月1日(金) 19:00～20:30 エンシティホテル 延岡	当院における急性冠症候群患者の脂質低下療法(仮) 宮崎県立延岡病院循環器内科 医長 黒木 一公	12 (0.5)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 アステラス製薬(株) アステラス・アムジェン・バイオファーマ
	積極的脂質低下療法の最新知見 ー冠動脈疾患に対する新たなアプローチー(仮) 琉球大学医学研究科循環器・腎臓・ 神経内科学講座 診療教授 岩淵 成志	73 (0.5) 75 (0.5)	◇後援 延岡内科医会 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
第15回 宮崎膠原病リウマチ治療研究会 6月6日(水) 19:10～20:50 宮崎観光ホテル 参加費:500円 (学生無料)	症例検討会 ①抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎関連間質性肺炎の5例 宮崎県立宮崎病院リウマチ膠原病内科 医長 上田 尚靖 ②当院におけるゴリブマブ有用性の検討 かいクリニックリウマチ科・整形外科 院長 甲斐 睦章	61 (0.5)	◇主催 宮崎膠原病リウマチ研究会 ◇共催 ※田辺三菱製薬(株) ☎0985-32-9205
	膠原病に伴う肺疾患 長崎大学医歯薬学総合研究科呼吸器内科学分野 (第二内科) 教授 迎 寛	45 (1.0)	
宮崎県医師会産業医研修会 6月13日(水) 14:00～16:00 県医師会館	ストレスチェック実施と集団分析のやりかた ーメンタルヘルス不調の事例を含むー 産業保健相談員 宮崎大学医学部 名誉教授 鶴 紀子	1 (0.5) 7 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
	生涯研修の実地研修会:2単位	11 (0.5) 69 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
慢性疼痛セミナー in宮崎 6月21日(木) 19:00～20:30 宮崎観光ホテル 参加費:500円 (学生・研修医無料)	高齢者脊椎障害に対するトータルケアマネジメント 秋田大学整形外科科学講座 教授 島田 洋一	59 (0.5) 77 (0.5)	◇主催 慢性疼痛セミナー in宮崎 ◇共催 日本イーライリリー(株) ※塩野義製薬(株) ☎0985-27-1041
宮崎県医師会産業 医研修会 6月21日(木) 19:00～21:00 県医師会館	メンタルヘルスー発達障害のABCー 産業保健相談員 都城新生病院 生涯研修の専門研修会:2単位	1 (0.5) 69 (0.5) 70 (0.5) 72 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
第82回宮崎大学眼 科研究会 6月23日(土) 17:00～19:00 宮崎観光ホテル 参加費:2,000円	網膜疾患と眼内VEGFの変化 滋賀医科大学眼科学講座 講師 澤田 修	36 (1.0)	◇主催 ※宮崎大学医学部眼科学教室 ☎0985-85-2806 ◇共催 千寿製薬(株)
	緑内障診療ガイドライン(第4版) 熊本大学生命科学研究部眼科学分野 教授 谷原 秀信	36 (1.0)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
宮崎県医師会産業 医研修会 6月28日(木) 14:00～16:00 県医師会館	治療と職業生活の両立 産業保健相談員 宮崎大学医学部患者支援センター センター長 鈴木 斎王 生涯研修の専門研修会：2単位	1 (0.5) 5 (0.5) 7 (0.5) 10 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
延岡医学会学術講 演会 6月29日(金) 19:00～20:15 エンシティホテル 延岡	肺癌の診断と最新治療 宮崎県立延岡病院呼吸器外科 医長 能勢 直弘	45 (0.5) 46 (0.5)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 大鵬薬品工業(株) (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300

日本医師会生涯教育カリキュラム(2016)

カリキュラムコード (略称: CC)

1 医師のプロフェッショナリズム	29 認知能の障害	57 外傷
2 医療倫理: 臨床倫理	30 頭痛	58 褥瘡
3 医療倫理: 研究倫理と生命倫理	31 めまい	59 背部痛
4 医師-患者関係とコミュニケーション	32 意識障害	60 腰痛
5 心理社会的アプローチ	33 失神	61 関節痛
6 医療制度と法律	34 言語障害	62 歩行障害
7 医療の質と安全	35 けいれん発作	63 四肢のしびれ
8 感染対策	36 視力障害, 視野狭窄	64 肉眼的血尿
9 医療情報	37 目の充血	65 排尿障害(尿失禁・排尿困難)
10 チーム医療	38 聴覚障害	66 乏尿・尿閉
11 予防と保健	39 鼻漏・鼻閉	67 多尿
12 地域医療	40 鼻出血	68 精神科領域の救急
13 医療と介護および福祉の連携	41 嘔声	69 不安
14 災害医療	42 胸痛	70 気分の障害(うつ)
15 臨床問題解決のプロセス	43 動悸	71 流・早産および満期産
16 ショック	44 心肺停止	72 成長・発達の障害
17 急性中毒	45 呼吸困難	73 慢性疾患・複合疾患の管理
18 全身倦怠感	46 咳・痰	74 高血圧症
19 身体機能の低下	47 誤嚥	75 脂質異常症
20 不眠	48 誤飲	76 糖尿病
21 食欲不振	49 嚥下困難	77 骨粗鬆症
22 体重減少・るい瘦	50 吐血・下血	78 脳血管障害後遺症
23 体重増加・肥満	51 嘔気・嘔吐	79 気管支喘息
24 浮腫	52 胸やけ	80 在宅医療
25 リンパ節腫脹	53 腹痛	81 終末期のケア
26 発疹	54 便通異常(下痢, 便秘)	82 生活習慣
27 黄疸	55 肛門・会陰部痛	83 相補・代替医療(漢方医療を含む)
28 発熱	56 熱傷	0 その他

医療機関の経営者・管理者の皆様へ

医療勤務環境 改善支援センターを ご利用ください

県下の社会保険労務士と医業経営コンサルタントが県内の医療機関からの医療勤務環境の相談内容に応じて専門的な助言・支援を行います。

医療労務管理相談

- スタッフが長く、安心して働ける職場にしたい!
- 育児・介護中の休み方、働き方は?
- 医師の負担を軽減させたい…

医業経営面

- スタッフのキャリアを磨きたい!
- 補助制度を上手に活用したい。
- 効率良く、経営を安定させたい。

相談
無料



まずは、お電話ください。

宮崎県医療勤務環境改善支援センター

公益社団法人宮崎県医師会内

月曜～金曜 午前10時から午後4時まで

TEL.0985-20-1211

FAX.0985-27-6550

E-mail iryou-kinmukaizen@miyazaki.med.or.jp

診療メモ



「倫理的に考える」ために必要なEBMとNBM

宮崎大学医学部医学科社会医学講座生命・医療倫理学分野 教授

宮崎大学医学部附属病院中央診療部門臨床倫理部 部長(併任)

いた い こういちろう
板 井 孝壺郎

EBM (Evidence-Based Medicine)とは、1991年にマクマスター大学のガイアット(G.H.Guyatt)が提唱し、その後サケット(D.Sackett)やタグウェル(P.Tugwell)らを中心とするワーキンググループによって概念の整理が進められ、現在では臨床医の曖昧な個人的経験に頼らず、科学的に実証された根拠(evidence)に基づいて、患者にとって最善の治療法を選択、実践するための方法論だとされています。ですが、EBMをめぐっては、さまざま「誤解」を含めた論争が生まれました。

EBMは「科学的根拠に基づく医療」と訳されることが多いのですが、「科学的根拠」と訳すと、狭い意味での科学的な実証的データのみが重視され、「患者の価値観」など実証的検証が困難な視点が軽視されてしまうのではないかと危惧を感じさせました。そのため、「EBMは患者の『数値化』を促し、集団的に平均的な『誰にでも効果のある治療法』と個人差のある『その患者に有効な治療法』を混同し、医療実践から『人間性』を奪ってしまうのではないか」といった疑問や批判の声が挙がったことは、皆さんご存知と思います。

ですが、こうした批判はEBMにとっての「情報」の意味を誤解していることに起因しています。第1の誤解は、その情報が「定量的(≒数値的)」でさえあれば質の高いエビデンスと捉えているという誤解です。「%などの数値で示され

ている」ということが、そのまま信頼性や妥当性を裏付けるのではなく、臨床疫学的・生物統計学的に批判的吟味(critical appraisal)を加え、「数値のカラクリ」を見抜いた上ではじめて意味のある「情報」になるはずです。第2は、無作為化割付(RCT)によるデータのみを「エビデンスレベルが高い」と捉え、それ以外の情報は無意味と考えているという誤解です。患者の検査、診断、治療をめぐる問題定式化によっては、RCTではなくとも観察研究やサンプル数の少ない症例報告もまた重要な情報となるのであって、エビデンスレベル(階層)が低いものは無意味ということでは決してありません。第3は、「EBMは診療ガイドラインを作成し、標準化された医療行為を強制するもの」という誤解です。EBM推進派からも「大規模臨床試験の結果を盲信して、個々の患者に適用するのは問題である」という指摘がなされており、あくまでも個々の患者の特性(健康状態や生活スタイル、価値観・選好なども含めて)を見抜き、患者に合わせて適切にエビデンスを適用する能力が重要であると強調されています。

NBM(Narrative-Based Medicine)は1998年、グリーンハル(T.Greenhalgh)、ハーウィッツ(B.Hurwitz)をはじめとする主に英国のGP(General Practitioner: 家庭医、総合診療医)を中心に提唱されました。昨年亡くなられた日野原先生も、NBMを大変重要視されていました。

NBMはEBMの「過度な科学性偏重」に反対する立場として登場してきた印象がありますが、提唱者の多くは同時にEBM推進派でもありました。NBMに関して確立した定義はまだないと言われていますが、富山大学の斎藤清二先生によると『「患者が主観的に体験する物語」を尊重し、医療者と患者との対話を通じて、新しい物語を共同構成していくことを重視する医療」です。NBMの特徴として、次のような現代医学に対する批判的姿勢があります。現代医学は患者を「生活世界(life world)」から切り離し、「生活者」としてではなく「患者」として「対象化(客観化)」してしまい、病気を疾病分類法に基づく「疾患(disease)」として定量的(≒数值的)にのみ捉えようとし、「唯一の正しい科学的真実」だけから治療を押し付け、患者との対話(コミュニケーション)も、「医師が欲しい情報」を訊きだすための「手段」としか捉えない、という批判です。

NBMは、病態生理学的観点から客観化された「疾患」としてのみ病気を捉えるのではなく、患者自身の主観的な体験として語られる「病い(illness)」を、疾患とは区別して重要視する医療人類学の方法論をベースにしています。例えば「睡眠薬を飲んでも眠れない」と訴えている患者に対し、「科学的」観点からエビデンスを得るために情報検索し、より効果が高いと考えられる処方量を増やしたり、新たな睡眠薬を処方するだけであるならば、それは「不眠」という「疾患」状態を捉えただけです。「睡眠薬の量を増やしても眠れないのはお辛いですね。よろしかったら、眠れないときのことをもう少し詳しく聴かせていただけないですか?」と「無知の姿勢(not-knowing)」で接し、患者の眠れないという「病いの物語」に耳を傾け、「対話」を進めていくことで得られる「情報」を重視することが、「物語と対話に基づく医療」と訳されるNBMについての根幹になります。「眠っているとき夢見が悪いというか、どうしても怖い夢を見て目が覚めてしまうんです」と語る患者の「物語」を「こん

なことは医療には関係ない」と無視して、「これだけ処方量を増やせば、80%の方は眠れるというデータがあるのですから眠れないのはおかしいですね」と言ってしまうとしたら、「統計的にも20%は効果がない患者がいる」ということを忘れ、「あなたがおかしい」と患者を非難し、「ふつうは効くのなら、自分の身体はもっと異常なのだろうか…」と患者をさらに不安にしていること、そしてそれが一層「不眠」を増悪させている可能性があることにさえ気付いていないとしたら、その医師の頭の中は「科学的」という名の「論理実証モード」に凝り固まってしまった「医師アタマ(石頭)」になってしまっているかも…。

サケットらによるEBMテキスト改訂第2版(2000年)には、「経験と意味(experience and meaning)」という項目が追加されました。その意味するところは、「患者が病いをどのように経験し、どのように意味づけているか」という、まさにNBMが主眼としてきた「病いの体験における主観的な語り」を、EBMもまた明確に意識し始めていたということです。NBMはEBMを拒絶するために誕生したのではなく、EBMはその初期からNBMを内包していたが明確に意識されていなかったために、エビデンスの意味も誤解され、やや「科学」偏重に陥りかけたが、NBMが軌道修正をかけ、本来あるべきEBMの姿(患者の「物語」としての主観的体験的価値観をも重視する“Ethics”-Based Medicine)へと成長させた、というべきかもしれません。

【参考文献】

- [1] 斎藤清二『医療におけるナラティブとエビデンス—対立から調和へ』遠見書房, 2012.
- [2] 尾藤誠司『医師アタマ』医学書院, 2007.

お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要です。県医師会学術広報課にお問い合わせください(TEL 0985-22-5118)。

またMMA通信(県医師会から会員への情報提供メーリングリスト)でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

送付日	文 書 名
1月29日	・公知申請に係る事前評価が終了し、医薬品医療機器等法に基づく承認事項の一部変更承認がなされた医薬品の保険上の取扱いについて ・抗PD-1抗体抗悪性腫瘍剤(キイトルーダ点滴静注)に係る最適使用推進ガイドライン(尿路上皮癌)の策定に伴う留意事項の一部改正等について
1月30日	・共済組合員証の無効通知について ・小児慢性特定疾病指定医育成研修会の開催について ・移植希望者(レシピエント)選択基準の一部改正について ・特定B型肝炎ウイルス感染者給付金等の支給に関する特別措置法に基づく給付金制度の周知・広報のためのリーフレット等の送付等について
2月2日	・高病原性鳥インフルエンザに関する対策について ・子ども予防接種週間のポスターの送付について ・「病原微生物検出情報」の送付について ・日本化学療法学会・日本感染症学会 外来抗菌薬適正使用調査委員会抗菌薬適正使用に関するアンケート調査について ・麻しん・風しんに関する情報提供について ・「日医特定健診診査システム」の今後の取扱いについて ・「第4回宮崎大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議主催研修会」～災害時の避難所活動の実際を学ぶ～
2月6日	・保健師・助産師・看護師国家試験に係る「受験番号に関する重要なお知らせ」について
2月7日	・入会案内パンフレット『ドクターゼ別冊』の送付並びに医師会入会促進に向けた協力依頼について
2月8日	・ヒトパピローマウイルス感染症の定期接種に関するリーフレットについて ・NBCR対策推進機構第3回「CBRNE災害と現場の対応」担当者養成講習会の開催について ・平成29年度学校保健講習会の映像配信について ・子ども予防接種週間の実施についての厚生労働省通知について ・「子ども予防接種週間」の実施に伴う小児救急医療体制の確保について

送付日	文 書 名
2 月 9 日	・有害物ばく露作業報告対象物(平成30年対象・平成31年報告)について ・平成30年 4 月介護報酬等改定に関する運営基準等に関する省令等の送付について ・予防接種後健康状況調査事業の実施機関の選定等について ・都城市保健センターの開設について
2 月13日	・麻酔科標榜許可に係る申請書等の様式の改正について ・電子お薬手帳の使用促進について ・材料価格基準の一部改正等について ・検査料の点数の取扱いについて ・偽造医薬品の流通防止に係る省令改正に関するQ&Aについて ・「かぜ薬等の添付文書等に記載する使用上の注意の一部改正について」の訂正について ・平成30年 3 月以降の東日本大震災による被災者に係る一部負担金等の取扱いについて
2 月14日	・平成30年 2 月 4 日からの大雪による災害に伴う予防接種の取扱いについて ・災害により被災した要介護高齢者等への対応および被災者に係る被保険者証の提示等について ・平成30年 2 月 4 日からの大雪による被災者に係る保険診療関係等及び診療報酬の取扱いについて
2 月15日	・医療事故の再発防止に向けた提言第 3 号の公表について ・シアン化ナトリウムに関する情報提供及び状況確認について ・地域医療構想調整会議の進め方について ・平成30年 2 月 4 日からの大雪による被災者に係る被保険者証等の提示等及び公費負担医療の取扱いについて ・イノツズマブ オゾガマイシン(遺伝子組換え)製剤の使用に当たっての留意事項について ・麻酔科標榜許可に係る申請書等の様式の改正について ・平成30年度日本医師会「医療安全推進者養成講座」の受講者募集について
2 月16日	・国立がん研究センター「患者さまが受けられた医療に関するご遺族の方へのアンケート調査」について(厚生労働省委託事業「がん患者の療養生活の最終段階における実態把握事業」)
2 月20日	・平成30年地域医療介護総合確保基金(医療分)について ・日本対がん協会「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」について ・公認心理師法第42条第 2 項に係る主治の医師の指示に関する運用基準の通知の送付について ・平成29年度豪雪による被災者に係る被保険者証等の提示等及び公費負担医療の取扱いについて ・平成29年度「自殺対策強化月間」における啓発活動等の推進について ・「市民公開講座 無痛分娩の安全性について」ご案内とご周知について ・オシメルチニブメシル酸塩製剤の使用成績調査の中間報告の結果について
2 月21日	・特定健康診査等の実施に関する協力依頼について ・医療機関におけるインフルエンザの集団発生について ・肝炎治療特別促進事業におけるハーボニー配合錠の取扱いについて

あとかき



春。暖かくなり、進級・進学や就職、それがなくてもどこか心が弾む、そんな季節になりました。なにか新しいことに挑戦したくなるような、ワクワクするこの季節の感じがとても好きです。

新しいことといえば、1か月ほど前から筋トレを始めました。男友達の中で筋トレが流行っていたことに加え、クリニカルクラークシップで救急科や外科を

回っている中でもっと体力も筋力もつけたいと感じたことがきっかけです。筋トレと言っても、ジムに行ってもやるようなハードなものではなく、自宅で数分～数十分でできる適度な負荷の自重筋トレです。朝少し早めに起きてストレッチと軽い筋トレをすると、なんだか頭も身体もすっきりとして1日がとてもいい気分です。スタートできます。身体周りがぎゅっと絞られる心地よい感覚はこれまで知らないものでした。ハードすぎないこと、一つひとつは数分で終わること、その日の気分や体調で内容を変えられることが、3日坊主が常な私でも続けられているポイントだと感じます。みなさんもぜひ一度チャレンジされてみてはいかがでしょうか。

今年はいよいよ5年生。新1年生には遂に2000年生まれの学生が入ってくることになり、自分との年齢の差に気が遠くなります。一方で学生生活が残り2年間になった私にとっては、自分の進路をますます考え絞っていく年であり、学生だからこそできる学びや遊びの時間も限られてきます。「やらなかった後悔よりもやって後悔する」そんな年を目指して、5年生の1年間を過ごしていきたいと思います。(泉)

* * *

家庭菜園歴4年となると、放っておいても虫がつかず、勝手に育つ野菜がわかってきました。その結果この季節は、ほぼ大根だけになりました。200円ちょっとの種で買ったものが、畑いっぱいになります。おでんのような煮物だけでは消費しきれず、ひたすら大根おろしにしています。しらす、納豆、シーチキン等いろんなものをブレンドして晩酌の一品となっていますが、いい加減飽きてきました。まだ40本はあり、どうしたものか。(岡本)

* * *

私たちの所属する合唱団の練習場所である幼稚園が移転することになったので、感謝の気持ちをこめて、先日、お別れコンサートを同園で開催した。今まではステージに立ち、しばらく歌っていると、両脚が震えだすという悪い癖？が出ていたのだが、今回は出なかった。合唱は、立位を保持するために下肢の筋肉を使うし、歌う際には腹筋を使う。今後は心身ともに鍛えながら、どんなステージに立っても動じない自分を目指したいと思う。(山崎)

* * *

4歳の娘と一緒によくドラえもんを見ます。2歳くらいから見ますのでTVシリーズ、映画ともほぼ全話網羅しています。中には大人でも考えさせられたり、泣ける話もあるので結構楽しんでみっていますが、ひとつ気になるのはしずかちゃん問題です。御承知のように、しずかちゃんはのび太と結婚するのですが、特にTVシリーズののび太はクオリティが低く、娘を持つ父親としてはどうしても納得できません。そこは出来杉君、せめてジャイアンかスネオだろうと突っ込みながら見えています。うちの子がしずかちゃんかって？教育はこれからです。(稲倉)

* * *

「春分の日」は、昼と夜の長さが同じだと習いましたが、実際は10分くらいの差があり、本当に同じくらいになるのは春分の日の4日前くらいだそうです。寒い冬を過ごしてきたことを思えば、少しずつ暖かくなり、やっと春がきた！と、ちょっと嬉しい気持ちになります。また、「彼岸の中日」でもあり、さっそくお墓参りに行ってきましたが、途中の沿道は既に桜の花が満開に近い状態で、ひと足先にお花見気分を味わうことができました。(上山)

* * *

今年の3月は、帰省ついでに広島旅行をしてきました。宮島観光から始まり、かつて旧日本軍が毒ガスを製造していたとされる大久野島、朝ドラ「マッサン」のモデルとなった竹鶴政孝の生家がある安芸の小京都などを回ることができました。中でも大久野島ではその殺伐とした歴史とは裏腹に、今ではのうさぎたちの楽園として海外からの観光客も多く訪れる観光名所となっており、日常の疲れを癒したい方にとってはとてもお勧めの観光地でした。(柴野)

* * *

先日、医師国保組合の主催する歩こう会で、都城にある霧島ファクトリーガーデンへ行ってきました。この会では4年前から、宮崎大学医学部の専門の先生を招いてロコモ予防体操を行っています。毎年参加してこの講習を受けると、習ったことを毎日の生活に自然と取り入れるようになり、体の調子がとても良いです。組合員の先生方、ご家族の皆様、来年度は参加してはいかがでしょうか。昼食と完歩賞の賞品までついています。(佐々木)

* * *

今月のトピックス

エコー・リレー 「エコー・リレーいや今回はメタボ・リレーの巻」 「ダイエット」

「エコー・リレー（南から北へ北から南へ）」のコーナーでは、毎月2人の先生にリレー方式でエッセイを投稿していただいています。毎回、いろいろな話題を読ませていただき感謝しております。打ち合わせ等はありませんが、極まれに両先生の前稿テーマが同じになることがあります。そんな月は何かいいいことがあるかもしれません。今月は偶然にも2つとも、「ちょっと太ってきた体型」がテーマです。みんな悩みは同じですね。

6 ページ

宮崎グルメ探訪 「サレルーナ」

昨年8月号から始まった、「宮崎グルメ探訪」も早いもので第6弾となりました。これまで原稿をお送りいただいた先生方には深く感謝申し上げます。今回はワインに造詣が深い棚田敏文先生におすすめイタリアンをご紹介しますいただきました。ワイン好きにもたまらないお店のようです。今後も「宮崎グルメ探訪」は継続していく予定です。皆様の原稿をお待ちしております。

7 ページ

診療メモ 「理論的に考える」ために必要なEBMとNBM

これまでを振り返ると、忙しい日々の診療ではどうしてもEBMに比重を置いた治療を行い、学会活動では治療結果を数値化し、その効果が統計学的に有意かどうかばかり追いかけてきたような気がします。もっと患者と話し、全人的にアプローチして治療を決定していくことの重要性をあらためて考えさせられました。

56 ページ

日 州 医 事 第824号(平成30年4月号)(毎月1回10日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会 会長 河野 雅行
〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550
<http://www.miyazaki.med.or.jp/> E-mail:office@miyazaki.med.or.jp

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 沖田 和久・副委員長 西田 隆昭, 岡本健太郎
委 員 中村 豪, 野村 勝政, 馬場 萌子, 二見 旬祐
山崎 俊輔, 稲倉 琢也, 上山 貴子, 柴野 雅資, 泉 摩依
担当副会長 富田 雄二・担当理事 荒木 早苗, 佐々木 究
事 務 局 学術広報課 立山 幸恵, 牧野 諭

印刷所 愛文社印刷株式会社・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。
定 価 350円(但し、県医師会員の購読料は会費に含めて徴収してあります)